世界知的所有権機関 際 事 務局 特許協力条約に基づいて公開された国際出願



(51) 国際特許分類6 G01N 33/53, C07K 16/18

(11) 国際公開番号 A1

WO97/34145

(43) 国際公開日

1997年9月18日(18.09.97)

(21) 国際出願番号

PCT/JP97/00804

(22) 国際出願日

1997年3月13日(13.03.97)

(30) 優先権データ

特願平8/56090

1996年3月13日(13.03.96)

(71) 出願人(米国を除くすべての指定国について)

三菱化学株式会社

(MITSUBISHI CHEMICAL CORPORATION)[JP/JP]

〒100 東京都千代田区丸の内二丁目5番2号 Tokyo, (JP)

(72) 発明者;および

(75) 発明者/出願人(米国についてのみ)

石黒 (ISHIGURO, Koichi)[JP/JP] 佐藤 紀(SATO, Kazuki)[JP/JP]

朴 (PARK, Jun-Mi)[KR/JP]

内田廣子(UCHIDA, Tsuneko)[JP/JP]

今堀和友(IMAHORI, Kazutomo)[JP/JP]

〒194 東京都町田市南大谷11

株式会社 三菱化学 生命科学研究所内 Tokyo, (JP)

(74) 代理人

弁理士 遠山 勉,外(TOYAMA, Tsutomu et al.) 〒103 東京都中央区東日本橋3丁目4番10号

ヨコヤマビル6階 Tokyo, (JP)

CA, JP, US, 欧州特許 (AT, BE, CH, DE, DK, (81) 指定国 ES, FI, FR, GB, GR, IE, IT, LU, MC, NL, PT, SE).

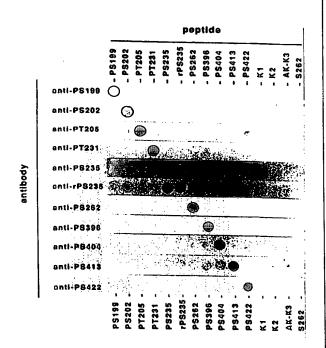
添付公開書類

国際調査報告書

ANTIPHOSPHORYLATED TAU PROTEIN ANTIBODY AND METHOD FOR DETECTING ALZHEIMER'S (54)Title: DISEASE WITH THE USE OF THE SAME

抗リン酸化タウ蛋白質抗体及びそれを用いるアルツハイマー病の検出方法 (54)発明の名称

An antibody is prepared by using a partial peptide containing the phosphorylated site of a phosphorylated tau protein in the paired helical filament as an immunogen. Then the reactivity of the antibody thus obtained with samples obtained from individuals with a suspicion of Alzheimer's disease is examined to thereby detect the disease.



(57) 要約

ペアード・ヘリカル・フィラメント (Paired Helical Filament) 中のリン酸化 タウ蛋白質のリン酸化部位を含む部分ペプチドを免疫原として抗体を調製し、得 られる抗体と、アルツハイマー病の疑いのある個体から得られた試料との反応性 を調べることにより、アルツハイマー病の検出を行う。

情報としての用途のみ

明細書

抗リン酸化タウ蛋白質抗体及びそれを用いるアルツハイマー病の検出方法

技術分野

本発明はアルツハイマー病の検出に用い得る抗体に関し、更に詳細には、ペアード・ヘリカル・フィラメント(Paired Helical Filament)中のリン酸化タウ蛋白質のリン酸化部位を含む部分ペプチドに対する抗体、それを含む試薬キット、及び前記抗体又はキットを用いたアルツハイマー病の検出方法に関する。

背景技術

アルツハイマー病は初老期(45~65才)に発病する進行性の痴呆で、病的な変化として神経細胞の変質および神経細胞数の減少による大脳皮質の萎縮が認められ、また、病理学的には、その脳内に多数の老人斑と神経原線維変化が認められる。65才以上の老年期に発症するいわゆる自然老化による老年痴呆も、病理学的に何ら本質的な差は認められないため、アルツハイマー型老年痴呆と呼ばれている。

この疾患の患者数は、高齢者人口の増加とともに増大し、社会的に重要な疾患となっている。しかし、この疾患の原因については諸説あるものの結果的には未 だ不明であり、早期の解明が望まれている。

アルツハイマー病の病理変化のひとつである老人斑の主要成分が、アミロイド β プロテインであることが解明されている(Annu. Rev. Neurosci., 12, 463-49 0(1989))。また、もうひとつの病理変化である神経原線維変化は、神経細胞内に PHF (ペアード・ヘリカル・フィラメント: Paired helical filament)が蓄積してくるものであり、その構成成分のひとつとして夕ウ蛋白質が同定されている (J. Biochem., 99, 1807-1810(1986); Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 83, 4913 -4917(1986))。

タウ蛋白質は、通常SDSポリアクリルアミドゲル電気泳動で分子量48~6

5kDに数本のバンドを形成する一群の近縁蛋白質であり、微小管の形成を促進することが知られている。

アルツハイマー病脳のPHF中に組み込まれた夕ウ蛋白質は、通常脳中の夕ウ蛋白質よりも異常にリン酸化されていることが、PHFに対するポリクローナル抗体(抗ptau; J. Biochem., 99, 1807-1810(1986))や、夕ウ蛋白質に対するモノクローナル抗体(tau-1抗体; Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 83. 4913-4917(1986))を用いて証明されている。また、PHF中に組み込まれたリン酸化夕ウ蛋白質のリン酸化部位も決定されるなど(特開平6-239893)、アルツハイマー病における夕ウ蛋白質の機構が判明しつつある。

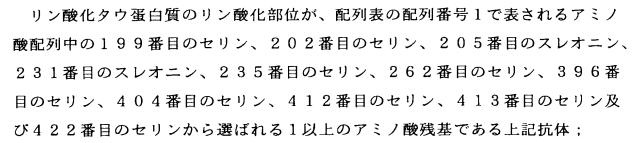
しかし、PHF中のリン酸化タウ蛋白質のリン酸化部位に着目してアルツハイマー病の検出を行うことについては現在までに知られておらず、また、種々の抗体を使用したアルツハイマー病の検出方法が提案されてはいるが、臨床上有効な新たな検出方法が求められているのが現状であった。

発明の開示

本発明者らは、PHF中のリン酸化タウ蛋白質のリン酸化部位に着目し、該リン酸化部位を含む部分ペプチドを免疫原とする抗体がアルツハイマー病の検出に有用であることを見出し本発明を完成するに至った。

即ち本発明によれば、ペアード・ヘリカル・フィラメント (Paired Helical Filament) 中のリン酸化タウ蛋白質のリン酸化部位を含む部分ペプチドを免疫原とする抗体が提供される。

この発明の好ましい態様によれば、リン酸化タウ蛋白質のリン酸化部位が、配列表の配列番号1で表されるアミノ酸配列中の198番目のセリン、199番目のセリン、202番目のセリン、205番目のスレオニン、231番目のスレオニン、235番目のセリン、262番目のセリン、396番目のセリン、403番目のスレオニン、404番目のセリン、409番目のセリン、412番目のセリン、413番目のセリン及び422番目のセリンから選ばれる1以上のアミノ酸残基である上記抗体:



リン酸化部位を含む部分ペプチドが、そのリン酸化部位のアミノ酸残基とその 前および/または後の複数個のアミノ酸残基を含むペプチドである上記抗体:

リン酸化部位を含む部分ペプチドが配列表の配列番号2から16のいずれかに 記載のアミノ酸配列で表される上記抗体が提供される。

また、本発明の別の態様によれば、少なくとも、上記いずれかの抗体よりなる、 アルツハイマー病の検出に用いるための試薬キットが提供される。

さらに、本発明の別の態様によれば、上記いずれかの抗体と、アルツハイマー 病の疑いのある個体から得られた試料との反応性を調べることを特徴とするアル ツハイマー病の検出方法が提供される。

本発明を以下に詳細に説明する。

本発明において夕ウ蛋白質の具体例としては、Goedert et. alのNeuron, <u>3</u>, 5 19-526(1989)に記載の352アミノ酸残基~441アミノ酸残基の一次構造を有する夕ウ蛋白質等が挙げられる。例えば、一次構造が配列表の配列番号1に記載のアミノ酸配列で表される夕ウ蛋白質を使用した場合、同配列の198番目のセリン、199番目のセリン、202番目のセリン、205番目のスレオニン、231番目のスレオニン、235番目のセリン、262番目のセリン、396番目のセリン、403番目のスレオニン、404番目のセリン、409番目のセリン、412番目のセリン、413番目のセリンおよび422番目のセリンから選ばれる1以上のアミノ酸残基がリン酸化される(J. Biol. Chem., <u>270</u>, 823-829(1995)およびNeurosci. Lett., 189, 167-170(1995))。

本発明においては、上記配列の199番目のセリン、202番目のセリン、205番目のスレオニン、231番目のスレオニン、235番目のセリン、262番目のセリン、396番目のセリン、404番目のセリン、412番目のセリン、413番目のセリンおよび422番目のセリンから選ばれる1以上のアミノ酸残

基がリン酸化されたタウ蛋白質の部分ペプチドであって、これらのリン酸化部位 を1以上含むペプチドを使用することが好ましい。

本発明で好ましく用いられるタウ蛋白質の部分ペプチドとしては、上記リン酸化部位のアミノ酸残基とその前および/または後の複数個のアミノ酸残基を含むペプチドが好ましい。特に、リン酸化部位のアミノ酸残基の前または後ろの一方又は両方に、1~7アミノ酸残基、より好ましくは3~5アミノ酸残基含むペプチドが好ましい。更に、これら部分ペプチドの中では、配列表の配列番号2から16のいずれかに記載のアミノ酸配列で表されるものが最も好ましい。

本発明の抗体は、上記のようなリン酸化タウ蛋白質のリン酸化部位を含む部分ペプチドを免疫原として動物を免疫し、その動物から血清を調製することによって得られる。その際、上記ペプチドのアミノ末端若しくはカルボキシル末端に反応性の官能基を有するアミノ酸、例えばシステイン、リジン、グルタミン酸、アスパラギン酸等を導入したものをハプテンとして担体蛋白質に結合し、それを免疫原に用いることが好ましい。

上記のペプチド中、配列番号 3、 1 3 、 1 5 及び 1 6 で表される部分ペプチドは、Tetrahedron Lett., <u>32</u>, 7083-7086 (1991)に記載されているように、リン酸化部位に対する保護基としてフェニル基を使用した固相法によるペプチド合成法により合成される。

上記以外の配列番号で表されるリン酸化ペプチドのように、芳香族アミノ酸、含硫アミノ酸及び複素環式アミノ酸を有する場合には、Peptide Chemistry 1993, 109-112(1994)に記載されているように、リン酸化部位に対する保護基としてシクロヘキシル基を使用したペプチド固相法、あるいはChem. Lett., 1099-1112 (1994)に記載されているように、リン酸化部位に対する保護基としてベンジル基を使用したペプチド固相法により合成される。

抗体の調製に際して、上記のようにして合成された部分ペプチドを、牛血清アルブミン(BSA)、甲状腺グロブリン、キーホール・リンペットのヘモシアニン等の担体蛋白質に結合させる。結合は、適当な縮合剤、例えばマレイミド、グルタールアルデヒド、カルボジイミド等を用いて容易に行うことができる。かくして得られる担体蛋白質に結合されたペプチドを動物に免疫する。動物の免疫は、

通常の抗体の製造と同様にして行えばよい。すなわち、担体蛋白質に結合されたペプチドを含む溶液を、必要に応じてアジュバントと混合し、マウス、ラット、ウサギ、モルモット、ヒツジ等、通常抗体の製造に用いられる動物の皮下または腹腔内に投与する。初回免疫後、2~3週間毎に追加免疫を行うと、力価の高い抗血清が得られる。免疫した動物から血液を採取し、血清を調製する。本発明においては、得られた抗血清は、精製することなくそのまま用いることもできるが、血清を熱処理して補体を失活させた後、硫酸アンモニウムによる塩析、イオン交換クロマトグラフィー等によってイムノグロブリン画分を精製してもよい。また、特定の部分ペプチドを固定化したペプチドカラムを用いて抗体を精製することにより、上記で示したリン酸化部位又はその近傍を特異的に認識する抗体が得られる。

また、免疫した動物から抗体産生細胞を採取し、常法によって、同系動物由来のミエローマ細胞等の培養細胞と融合させてハイブリドーマを作製し、そのハイブリドーマの培養液からイムノグロブリン画分を調製することによって、特定のエピトープを認識するモノクローナル抗体が得られる。

本発明によって得られた抗体とアルツハイマー病の疑いのある個体から得られた試料とを、それ自体既知の通常用いられる方法により免疫反応させ、抗原 – 抗体反応物を検出して試料と抗体との反応性を調べることによりアルツハイマー病を検出できる。また、得られた抗体を用いて、上記免疫反応及び検出工程等を含むアルツハイマー病の検出に用いるための試薬キットを調製できる。このようなキットは、通常の免疫反応を利用したキットと同様の構成によって提供される。すなわち、本発明の試薬キットは、少なくとも本発明の抗体を含み、さらに任意の要素として、試料希釈液、洗浄液、標識化抗体または標識化抗原、色素、陽性コントロール用のペプチド等を含む。

本発明の抗体又は試薬キットを用いると、例えば次の通りアルツハイマー病を 検出できる。

先ず、アルツハイマー病の疑いのある個体から試料を入手し、次いで上記のようにして得られた抗体と反応させる。前記試料としては、大脳皮質等の組織、脳 脊髄液または血液等の体液が挙げられる。組織の試料を本願発明に従って検出す る場合、組織が約0.1mg程度必要である。また脳脊髄液や血液を試料として 用いる場合、約0.5~0.01ml程度が必要である。

上記のような試料が得られたあと、その試料を生理的緩衝液中でホモジナイズ し、遠心分離し、次いで得られた上清はまず分画して潜在している免疫グロブリ ンを除去したのち、上記で得られた抗体に対する反応性を指標として試験を行う。

上記で得られた画分を電気泳動にかけ上記で得られた抗体を加えて免疫ブロットを行う。このとき抗体には通常使用されるような標識を付けることにより検出してもよく、この抗体と免疫反応性のある二次抗体と反応させることにより検出してもよい。

このようにして、アルツハイマー病の疑いのある個体について、試料と抗体との反応性を調べ、アルツハイマー病でない個体のコントロールと比較して反応性が増大している場合は、その個体はアルツハイマー病であると確認される。また、アルツハイマー病である個体のコントロールと比較して反応性が低下している場合は、その個体はアルツハイマー病でないと、確認される。このようにして、本発明によってアルツハイマー病の検出を行うことができる。

本発明においては、リン酸化タウ蛋白質全体、あるいはPHFを免疫原として得られる抗体と異なり、各リン酸化部位に対する特異性の高い抗体が得られ、抗原認識の特異性を解析することなく、リン酸化タウ蛋白質のリン酸化部位特異的検出に有用である。更に、各リン酸化部位について、部位特異的な種々の抗体を効率的に得ることができる。かくして得られる種々の抗体とアルツハイマー病個体の試料との反応性を検討することにより、アルツハイマー病の検出に最も適した抗体を簡便に選択することができる。

図面の簡単な説明

図1は、リン酸化タウ蛋白質のリン酸化部位を含む部分ペプチドを免疫して得られた抗体の特異性を示すドットプロットの図である。

図2は、実施例で得られたTS画分(ヒト大脳皮質懸濁液の上清からIgGを除去した画分)と本発明で用いる抗体との反応性を示す電気泳動の写真(免疫プ

ロット)である。

図3は、実施例で得られたSDS沈殿画分と本発明で用いる抗体との反応性を示す電気泳動の写真(免疫プロット)である。

図4は、実施例で得られたSDS沈殿画分と本発明で用いる抗体との反応性を 示す電気泳動の写真(免疫プロット)である。

図5は、実施例で得られた競合法RIA測定系における検量線である。

図6は、実施例で得られたアルツハイマー病患者および非痴呆患者の脳脊髄液中のリン酸化タウ蛋白質濃度の測定結果を示す。

発明を実施するための最良の形態

以下に実施例を挙げて本発明をさらに具体的に説明するが、本発明はこれらに 限定されるものではない。

製造例 1 配列表の配列番号 3 に記載のアミノ酸配列を有する部分ペプチド (以下、本ペプチドを「PS202」、本ペプチドに対する抗体を「anti-PS202」と称 することもある)の調製

H-Lys-Ser-Ser-Pro-Gly-Ser(H_2PO_3)-Pro-Gly-Thr-Pro-Gly-Ser-Arg-NH2 (配列番号3)で表されるペプチドを次に述べる方法により製造した。なお、以下の説明で用いる記号は各々次のものを示す。MBHA樹脂: p-メチルベンツヒドリルアミン樹脂; Boc: t-ブチルオキシカルボニル基; Bz1: ベンジル基; Ph: フェニル基; Tos: p-トルエンスルホニル基; Z(2-C1): 2-クロルベンジルオキシカルボニル基。

(イ)H-Lys[Z(2-C1)]-Ser(Bz1)-Ser(Bz1)-Pro-Gly-Ser[P0(0Ph)₂]-Pro-Gly-T hr(Bz1)-Pro-Gly-Ser(Bz1)-Arg(Tos)-MBHA樹脂の製造

MBHA樹脂 0. 9 4 g (アミン含量 0. 6 4 m m o 1 / g 樹脂)をバイオサーチ 社製 9 5 0 0 型自動ペプチド合成機にセットし、これにBoc-Arg(Tos)-OH, Boc-S er(Bz1)-OH, Boc-Gly-OH, Boc-Pro-OH, Boc-Thr(Bz1)-OH, Boc-Gly-OH, Boc-Pro -OH, Boc-Ser[PO(OPh)2]-OH, Boc-Gly-OH, Boc-Pro-OH, Boc-Ser(Bz1)-OH, Boc-Ser(Bz1)-OH, Boc-Ser(Bz1)-OH, Boc-Lys[Z(2-C1)]-OHを供給して、ジイソプロピルカルボジイミドを縮合剤として順次縮合させて上記の側鎖保護ペプチド-MBHA樹脂2. 38gを得た。

(ロ)フッ化水素処理

上記(イ)で得た側鎖保護ペプチド-MBHA樹脂中の1.34gを採取し、これを蛋白質研究奨励会ペプチド研究所製のフッ化水素反応装置にセットし、1.5mlのアニソールの存在下で13mlのフッ化水素と氷冷下1時間反応させた。反応終了後、フッ化水素を減圧下留去し、残留物を酢酸エチルで洗浄した後、2M酢酸150mlで抽出処理してH-Lys-Ser-Ser-Pro-Gly-Ser[PO(0Ph)2]-Pro-Gly-Thr-Pro-Gly-Ser-Arg-NH2で表されるリン酸基を保護した粗ペプチド350mgを得た。

これを30%酢酸20m1に溶解してセファデックスG-25のカラム(内径5cm、長さ109cm)にかけ、同じ溶媒を用いて溶出して目的物を含む画分を集めた。次いでこれを少量の蒸留水に溶解しODS(オクタデシルシラン)をシリカに結合した逆相系のカラム(内径2cm、長さ25cm)を用いたHPL C(高速液体クロマトグラフィー)により精製した。溶出は0.1%トリフルオロ酢酸中、5から65%のアセトニトリルの直線濃度勾配により行った。精製物の収量は110mgであった。本物質の構造はFAB質量分析により確認された。測定値 $[M+H]^+$; 1445、計算値($C_{61}H_{92}N_{18}O_{21}P_{1}+H$); 1445。

(ハ)加水素分解

上記(ロ)で得たリン酸基を保護したペプチド90mg及び酸化白金80mg (触媒)を1mlの酢酸と混合して $5\sim6$ 気圧の水素圧下、室温で12時間撹拌した後、触媒を濾過した。濾液及び洗液を集めて凍結乾燥し、分取HPLCにより精製して最終目的物であるH-Lys-Ser-Ser-Pro-Gly-Ser(H_2 PO $_3$)-Pro-Gly-Thr-Pro-Gly-Ser-Arg-N H_2 で表されるリン酸化ペプチド55mgを得た。本物質の構造はFAB質量分析により確認された。測定値 $[M+H]^+$; 1294、計算値 (C4 $_9$ H $_{85}$ N $_{18}$ O $_{21}$ P $_1$ +H); 1294。





製造例 2~4

- 9 -

配列表の配列番号 13、15 及び 16 に記載のアミノ酸配列を有する部分ペプチドについても上記製造例 1 と同様にして得た(以下、これらのペプチドをそれぞれ「PS413」、「PS412」、「PS412、413」、これらのペプチドに対する抗体をそれぞれ「anti-PS413」、「anti-PS412」、「anti-PS412、413」と称することもある)。

製造例 5 配列表の配列番号 2 に記載のアミノ酸配列を有する部分ペプチド(以下、本ペプチドを「PS199」、本ペプチドに対する抗体を「anti-PS199」と称することもある)の調製

H-Lys-Ser-Gly-Tyr-Ser-Ser(H_2PO_3)-Pro-Gly-Ser-Pro-Gly-Thr-NH2 (配列番号 2) で表されるペプチドを次に述べる方法により製造した。なお、以下の説明で用いる記号は各々次のものを示す。MBHA樹脂: p-メチルベンツヒドリルアミン樹脂; Boc: t-ブチルオキシカルボニル基; Bzl: ベンジル基; cHex: シクロヘキシル基; Z(2-Br): 2-ブロモベンジルオキシカルボニル基; Z(2-C1): 2-クロルベンジルオキシカルボニル基。

(イ) H-Lys[Z(2-C1)]-Ser(Bz1)-Gly-Tyr[Z(2-Br)]-Ser(Bz1)-Ser[P0(0cHex)2]-Pro-Gly-Ser(Bz1)-Pro-Gly-Thr(Bz1)-MBHA樹脂の製造

MBHA樹脂 1 3 1 mg(アミン含量 0.76 mmol/g 樹脂)をバイオサーチ 社製 9 5 0 0 型自動ペプチド合成機にセットし、これにBoc-Thr(Bz1)-OH, Boc-G ly-OH, Boc-Pro-OH, Boc-Ser(Bz1)-OH, Boc-Gly-OH, Boc-Pro-OH, Boc-Ser[PO(0 cHex)2]-OH, Boc-Ser(Bz1)-OH, Tyr[Z(2-Br)]-OH, Boc-Gly-OH, Boc-Ser(Bz1)-O H, Boc-Lys[Z(2-C1)]-OHを供給し、ジイソプロピルカルボジイミドを縮合剤とし て順次縮合させて上記の側鎖保護ペプチド-MBHA樹脂 3 0 7 mgを得た。

(ロ)トリフルオロメタンスルホン酸処理

上記(イ)で得た側鎖保護ペプチド-MBHA樹脂中の150mgを採取し、これに

1 M濃度のメタンスルホン酸とチオアニソールを含むトリフルオロ酢酸 $10 \, \mathrm{m}$ $10 \,$

(ハ)ペプチドの精製

これを蒸留水 6 m 1 に溶解しODS(オクタデシルシラン)をシリカに結合した逆相系のカラム(内径 2 c m、長さ 2 5 c m)を用いたHPLCにより精製した。溶出は 0. 1 %トリフルオロ酢酸中、5 から 3 5 %のアセトニトリルの直線濃度勾配により行った。精製物の収量は 2 9 m g であった。本物質の構造は F A B 質量分析により確認された。測定値 $[M+H]^+$; 1 2 0 4、計算値($C_{47}H_7$ 5 N_{14} O_{21} P_{1} + H); 1 2 0 4。

製造例 6 配列表の配列番号 6 に記載のアミノ酸配列を有する部分ペプチド(以下、本ペプチドを「PT231」、本ペプチドに対する抗体を「anti-PT231」と称することもある)の調製

H-Cys-Val-Ala-Val-Val-Arg-Thr($\mathrm{H}_2\mathrm{PO}_3$)-Pro-Pro-Lys-Ser-Pro-Ser-Ser-OH(配列番号 6) で表されるペプチドを次に述べる方法により製造した。なお、以下の説明で用いる記号は各々次のものを示す。Bzl樹脂:ベンジルアルコール樹脂;Boc:t-ブチルオキシカルボニル基;Bzl:ベンジル基;MBzl:4-メトキシベンジル基;Mts:メチレンスルホニル基;cHex:シクロヘキシル基; $\mathrm{Z}(2\text{-Cl}):2\text{-}クロル$ ベンジルオキシカルボニル基。

(イ)H-Cys(MBz1)-Val-Ala-Val-Arg(Mts)-Thr[P0(OcHex)2]-Pro-Pro-Lys [Z(2-C1)]-Ser(Bz1)-Pro-Ser(Bz1)-Ser(Bz1)-Bz1樹脂の製造

Boc-Ser(Bz1)-Bz1樹脂 7 1 m g (アミン含量 0. 7 0 m m o 1 / g 樹脂)をバイオサーチ社製 9 5 0 0 型自動ペプチド合成機にセットし、これにBoc-Ser(Bz1)

WO 97/34145





-OH, Boc-Pro-OH, Boc-Ser(Bz1)-OH, Boc-Lys[Z(2-C1)]-OH, Boc-Pro-OH, Boc-Pro-OH, Boc-Pro-OH, Boc-Thr[PO(OcHex)2]-OH, Boc-Arg(Mts)-OH, Boc-Val-OH, Boc-Val-OH, Boc-Val-OH, Boc-Val-OH, Boc-Val-OH, Boc-Cys(MBz1)-OHを供給し、ジイソプロピルカルボジイミドを縮合剤として順次縮合させて上記の側鎖保護ペプチド-Bzl樹脂62mgを得た。

(ロ) トリフルオロメタンスルホン酸処理

上記(イ)で得た側鎖保護ペプチド-Bzl樹脂62mgにトリフルオロメタンスルホン酸0.9mlとチオアニソール1.2mlとトリフルオロ酢酸6.6mlとm-クレゾール0.9mlとエタンジチオール0.4mlを加え、氷冷下5分、続いて室温で3時間反応させた。反応終了後、氷冷したジエチルエーテル200mlを加えてペプチドを沈殿させた。全内容物をグラスフィルターで濾取し、冷ジエチルエーテルで洗浄した後2M酢酸170mlで抽出処理してH-Cys-Val-Ala-Val-Val-Arg-Thr(H_2PO_3)-Pro-Pro-Lys-Ser-Pro-Ser-Ser-OH で表される粗ペプチド21mgを得た。

(ハ) ペプチドの精製

これを30%酢酸10m 1 に溶解してセファデックスG-25 のカラム(内径5 cm、長さ107 cm)にかけ、同じ溶媒を用いて溶出して目的物を含む画分を集めた。この精製物の収量は12m g であった。

これを30%酢酸5m1に溶解しODS(オクタデシルシラン)をシリカに結合した逆相系のカラム(内径2cm、長さ25cm)を用いたHPLCにより精製した。溶出は0.1%トリフルオロ酢酸中、13%のアセトニトリルにより行った。精製物の収量は7mgであった。本物質の構造はFAB質量分析により確認された。測定値 $[M+H]^+$; 1509、計算値($C_{61}H_{107}N_{18}O_{22}P_{1}S_{1}+H$); 1508。

製造例 7 配列表の配列番号 1 1 に記載のアミノ酸配列を有する部分ペプチド (以下、本ペプチドを「PS396」、本ペプチドに対する抗体を「anti-PS396」と称 することもある)の調製 H-Cys-Glu-Ile-Val-Tyr-Lys-Ser(H_2PO_3)-Pro-Val-Val-Ser-Gly-NH2 (配列番号 $1\ 1$) で表されるペプチドを次に述べる方法により製造した。なお、以下の説明で用いる記号は各々次のものを示す。MBHA樹脂: p-メチルベンツヒドリルアミン樹脂; Boc: t-ブチルオキシカルボニル基; Bzl: ベンジル基; MBzl: 4-メトキシベンジル基; cHex: シクロヘキシル基; Z(2-Br): 2-ブロモベンジルオキシカルボニル基; Z(2-Cl): 2-クロルベンジルオキシカルボニル基。

(イ) H-Cys(MBz1)-Glu(OBz1)-Ile-Val-Tyr[Z(2-Br)]-Lys[Z(2-C1)]-Ser[P0(0 cHex)₂]-Pro-Val-Val-Ser(Bz1)-Gly-MBHA樹脂の製造

MBHA樹脂 1 3 1 mg (アミン含量 0. 7 6 mm o 1/g 樹脂)をバイオサーチ 社製 9 5 0 0 型自動ペプチド合成機にセットし、これにBoc-Gly-OH, Boc-Ser(Bz 1)-OH, Boc-Val-OH, Boc-Val-OH, Boc-Pro-OH, Ser[PO(OcHex)₂]-OH, Boc-Lys[Z (2-C1)]-OH, Tyr[Z(2-Br)]-OH, Boc-Val-OH, Boc-Ile-OH, Boc-Glu(OBz1)-OH, B oc-Cys(MBz1)-OHを供給し、ジイソプロピルカルボジイミドを縮合剤として順次縮 合させて上記の側鎖保護ペプチド-MBHA樹脂 3 7 6 mgを得た。

(ロ) トリフルオロメタンスルホン酸処理

上記(イ)で得た側鎖保護ペプチド-MBHA樹脂中の188mgを採取し、これに 1 M濃度のメタンスルホン酸とチオアニソールを含むトリフルオロ酢酸 10m1 とm-クレゾール0. 05m1を加え、氷冷下4時間反応させた。反応終了後、氷冷したジエチルエーテル200m1を加えてペプチドを沈殿させた。全内容物をグラスフィルターで濾取し、冷ジエチルエーテルで洗浄した後 2 M酢酸 200m1 1 で抽出処理してH-Cys-Glu-Ile-Val-Tyr-Lys-Ser(H_2PO_3)-Pro-Val-Val-Ser-Gly-NH2で表される粗ペプチド87mgを得た。

(ハ) ペプチドの精製

これを30%酢酸 $9\,m$ 1 に溶解しODS(オクタデシルシラン)をシリカに結合した逆相系のカラム(内径 $2\,c\,m$ 、長さ $2\,5\,c\,m$)を用いたHPLCにより精製した。溶出は $0.\,1\,\%$ トリフルオロ酢酸中、 $1\,6\,\%$ のアセトニトリルにより行った。精製物の収量は $4\,5\,m\,g$ であった。本物質の構造は $F\,A\,B$ 質量分析により

確認された。測定値 [M+H] [†]; 1360、計算値 (C₅₇H₉₅N₁₄O₂₀P₁S₁+H); 1360。

製造例8~10

配列表の配列番号 4、1 2 及び 1 4 に記載のアミノ酸配列を有する部分ペプチドについても上記製造例 5、6 および 7 と同様にして得た(以下、これらのペプチドをそれぞれ「PT205」、「PS404」、「PS422」、これらのペプチドに対する抗体をそれぞれ「anti-PT205」、「anti-PS404」、「anti-PS422」と称することもある)。

製造例 1 配列表の配列番号 7 に記載のアミノ酸配列を有する部分ペプチド (以下、本ペプチドを「PS235」、本ペプチドに対する抗体を「anti-PS235」と称することもある)の調製

H-Cys-Arg-Thr-Pro-Pro-Lys-Ser(H_2PO_3)-Pro-Ser-Ser-Ala-Lys-OH(配列番号 7) で表されるペプチドを次に述べる方法により製造した。なお、以下の説明で用いる記号は各々次のものを示す。Alko樹脂:p-アルコキシベンジルアルコール樹脂;Boc:t-ブチルオキシカルボニル基;tBu:t-ブチル基;Bz1:ベンジル基;Fmoc:9-フルオレニルメトキシカルボニル基;Trt:トリチル基;Pmc:ペンタメチルクロマン-6-スルホニル基。

(イ)H-Cys(Trt)-Arg(Pmc)-Thr(tBu)-Pro-Pro-Lys(Boc)-Ser[P0(0H)(0Bz1)]-Pro-Ser(tBu)-Ser(tBu)-Ala-Lys(Boc)-Alko樹脂の製造

Fmoc-Lys(Boc)-Alko樹脂 3 8 5 m g (アミノ酸含量 0.65 m m o 1/g 樹脂)をアプライドバイオシステムズ社製 4 3 1 A型自動ペプチド合成機にセットし、これにFmoc-Ala-OH, Fmoc-Ser(tBu)-OH, Fmoc-Ser(tBu)-OH, Fmoc-Pro-OH, Fmoc-Ser[PO(OH)(OBz1)]-OH, Fmoc-Lys(Boc)-OH, Fmoc-Pro-OH, Fmoc-Pro-OH, Fmoc-Thr(tBu)-OH, Fmoc-Arg(Pmc)-OHを供給し、HBTU [2-(1H-benzotriazole-1-y1)-1, 1, 3, 3, -tetramethyluronium hexafluorophosphate]を縮合剤として順次縮合させ

て側鎖保護ペプチド-Alko樹脂中間体716mgを得た。この中間体358mgに Fmoc-Cys(Trt)-OHを縮合し上記の側鎖保護ペプチド-Alko樹脂395mgを得た。

(ロ) トリフルオロ酢酸処理

上記(イ)で得た側鎖保護ペプチド-Alko樹脂中の196mgを採取し、これにトリフルオロ酢酸8.25ml、精製水0.5ml、チオアニソール0.5ml、フェノール0.75ml、エタンジチオール0.25mlよりなる混合液を加え、室温で1.5時間反応させた。反応終了後、氷冷したジエチルエーテル200mlを加えてペプチドを沈殿させた。全内容物をグラスフィルターで濾取し、冷ジエチルエーテルで洗浄した後2M酢酸80mlで抽出処理してH-Cys-Arg-Thr-Pro-Pro-Lys-Ser(H_2PO_3)-Pro-Ser-Ser-Ala-Lys-OHで表される粗ペプチド82mgを得た。

(ハ) ペプチドの精製

これを 0.1%トリフルオロ酢酸 $7\,m$ 1 に溶解 1 におり 1 になり 1 に溶解 1 に容明 1 に記述 1 に容明 1 に容明 1 に容明 1 に容明 1 に容明 1 に容明 1 に記述 1 に容明 1 に容明 1 に記述 1

製造例12~15

配列表の配列番号 5、 8 、 9 及び 1 0 に記載のアミノ酸配列を有する部分ペプチドについても上記製造例 1 1 と同様にして得た(以下、これらのペプチドをそれぞれ「PS199, 202」、「ratPS235」、「PT231, PS235」、「PS262」、これらのペプチドに対する抗体をそれぞれ「anti-PS199, 202」、「anti-ratPS235」、「anti-PT231, PS235」、「anti-PS262」と称することもある)。

製造例 16 配列表の配列番号 17 に記載のアミノ酸配列を有する部分ペプチド(以下、本ペプチドを「Tau-C」、本ペプチドに対する抗体を「anti-Tau-C」と称することもある)の調製

II-Ser-Pro-Gln-Leu-Ala-Thr-Leu-Ala-Asp-Glu-Val-Ser-Ala-Ser-Leu-Ala-Lys-OH(配列番号17)で表されるアミノ酸配列をもつペプチドを次に述べる方法により製造した。なお、以下の説明で用いる記号は各々次のものを示す。Alko樹脂: p-アルコキシベンジルアルコール樹脂; Boc: t-ブチルオキシカルボニル基; t Bu: t-ブチル基; Bzl: ベンジル基; Fmoc: 9-フルオレニルメトキシカルボニル基; Trt: トリチル基。

(イ) H-Ser(tBu)-Pro-Gln(Trt)-Leu-Ala-Thr(tBu)-Leu-Ala-Asp(0tBu)-Glu(0tBu)-Val-Ser(tBu)-Ala-Ser-Leu-Ala-Lys(Boc)-Alko樹脂の製造

Alko樹脂 2 8 4 m g (アミン含量 0. 8 8 m m o 1 / g 樹脂)をABI社製A 4 3 1 型自動ペプチド合成機にセットし、これにFmoc-Lys(Boc)-OHをジメチルアミノピリジンとジイソプロピルカルボジイミドを縮合剤として結合し、これにFmoc-A la-OH, Fmoc-Leu-OH, Fmoc-Ser(tBu)-OH, Fmoc-Ala-OH, Fmoc-Ser(tBu)-OH, Fmoc-Colu(OtBu)-OH, Fmoc-Asp(OtBu)-OH, Fmoc-Ala-OH, Fmoc-Leu-OH, Fmoc-Thr(tBu)-OH, Fmoc-Ala-OH, Fmoc-Leu-OH, Fmoc-Gln(Trt)-OH, Fmoc-Pro-OH, Fmoc-Ser(tBu)-OHを供給し、HBTU [2-(1H-benzotriazole-1-y1)-1, 1, 3, 3, -tetramethyluronium hexafluorophosphate]を縮合剤として順次縮合させて上記の側鎖保護ペプチド-Alko樹脂 9 0 5 m g を得た。

(ロ)トリフルオロ酢酸処理

上記(イ)で得た側鎖保護ペプチド-Alko樹脂中の543mgを採取し、これにトリフルオロ酢酸9.5mlとエタンジチオール0.25mlと蒸留水0.5mlを加え、氷冷下5分、続いて室温で1.5時間反応させた。反応終了後、氷冷したジエチルエーテル200mlを加えてペプチドを沈殿させた。全内容物をグラスフィルターで濾取し、冷ジエチルエーテルで洗浄した後2M酢酸100mlで抽出してH-Ser-Pro-Gln-Leu-Ala-Thr-Leu-Ala-Asp-Glu-Val-Ser-Ala-Ser-Leu-で抽出してH-Ser-Pro-Gln-Leu-Ala-Thr-Leu-Ala-Asp-Glu-Val-Ser-Ala-Ser-Leu-

Ala-Lys-OHで表される粗ペプチド250mgを得た。

(ハ) ペプチドの精製

これを30%酢酸20m1に溶解してセファデックスG-25のカラム(内径5cm、長さ107cm)にかけ、同じ溶媒を用いて溶出して目的物を含む画分を集めた。この精製物の収量は122mgであった。本物質の構造はFAB質量分析により確認された。測定値 $[M+H]^+$; 1702、計算値($C_{73}H_{125}N_{19}O_{27}S_2+H$); 1701。

製造例 17 配列表の配列番号 18 に記載のアミノ酸配列を有する部分ペプチド(以下、本ペプチドを「Tau-N」、本ペプチドに対する抗体を「anti-Tau-N」と称することもある)の調製

H-Ala-Glu-Pro-Arg-Gln-Glu-Glu-Phe-Glu-Val-Met-Glu-Cys-NH2(配列番号18)で表されるアミノ酸配列をもつペプチドを次に述べる方法により製造した。なお、以下の説明で用いる記号は各々次のものを示す。Fmoc-NH-SAL樹脂:4-(2',4'-dimethoxyphenyl-Fmoc-aminoethyl)-phenoxy樹脂;Boc:t-ブチルオキシカルボニル基;tBu:t-ブチル基;Bzl:ベンジル基;Fmoc:9-フルオレニルメトキシカルボニルエル基;Trt:トリチル基;Pmc:ペンタメチルクロマン-6-スルホニル基。

(イ) H-Ala-Glu(0tBu)-Pro-Arg(Pmc)-Gln(Trt)-Glu(0tBu)-Phe-Glu(0tBu)-Va 1-Met-Glu(0tBu)-Cys(Trt)-NH-SAL樹脂の製造

Fmoc-NH-SAL樹脂 5 3 2 m g (アミン含量 0. 4 7 m m o l / g 樹脂)をABI社製A 4 3 1 型自動ペプチド合成機にセットし、これにFmoc-Cys(Trt)-OH, Fmoc-G lu(OtBu)-OH, Fmoc-Met-OH, Fmoc-Val-OH, Fmoc-Glu(OtBu)-OH, Fmoc-Phe-OH, Fmoc-Glu(OtBu)-OH, Fmoc-Gln(Trt)-OH, Fmoc-Arg(Pmc)-OH, Fmoc-Pro-OH, Fmoc-Glu(OtBu)-OH, Fmoc-Ala-OHを供給し、HBTU [2-(1H-benzotriazole-1-y1)-1,1,3,3,-tetramethyluronium hexafluorophosphate]を縮合剤として順次縮合させて上記の側鎖保護ペプチド-NH-SAL樹脂 1 1 2 2 m g を得た。

(ロ) トリフルオロ酢酸処理

上記(イ)で得た側鎖保護ペプチド-NH-SAL樹脂中の673mgを採取し、これにフェノール0.75mlとチオアニソール0.5mlとトリフルオロ酢酸8.25mlとエタンジチオール0.25mlと蒸留水0.5mlを加え、氷冷下5分、続いて室温で1.5時間反応させた。反応終了後、氷冷したジエチルエーテル200mlを加えてペプチドを沈殿させた。全内容物をグラスフィルターで濾取し、冷ジエチルエーテルで洗浄した後2M酢酸50mlと蒸留水250mlで抽出処理してH-Ala-Glu-Pro-Arg-Gln-Glu-Glu-Phe-Glu-Val-Met-Glu-Cys-NH2で表される粗ペプチド182mgを得た。

(ハ) ペプチドの精製

これを30%酢酸20m」に溶解してセファデックスG-25のカラム(内径5cm、長さ107cm)にかけ、同じ溶媒を用いて溶出して目的物を含む画分を集めた。この精製物の収量は136mgであった。

これを20%アセトニトリル20m1に溶解しODS(オクタデシルシラン)をシリカに結合した逆相系のカラム(内径2cm、長さ25cm)を用いたHPLCにより精製した。溶出は0.1%トリフルオロ酢酸中、22%のアセトニトリルにより行った。精製物の収量は96mgであった。本物質の構造はFAB質量分析により確認された。測定値 $[M+H]^+$; 1467、計算値($C_{61}H_{96}N_{17}O_{21}S_{2}+H$);1467。

実施例1 抗体の調製

上記製造例 1~17で得られた部分ペプチドを、等重量のキーホール・リンペットのヘモシアニンに結合させて免疫原を調製した。免疫原 0.2 m g を 0.3 m l の生理食塩水に溶解し、等容量のフロイントアジュバントと乳濁させて、3週間毎にウサギに免疫した。得られた抗血清をImmunopure gentle Ag/Ab buffer system(Pierce社製)を使用し、それぞれの抗原ペプチドを結合させたAffigel 15 (Bio-Rad社製)カラムから溶出させることにより精製して、上記で示したリン酸化部位を特異的に認識する抗体が得られた。

抗体の特異性は、ドットブロットで確認した。

即ち、immobilon P-membrane (Millipore社製) に70%DMSO溶液の各種ペプチドを18pmolずつ点(ドット)になるように並べて吸着させ乾燥させた。このmembraneを5%スキムミルク入りのTBS(20mM Tris-HCl(pH7.5), 150mM NaCl)に1時間浸して、以後の操作で加える抗体が非特異的にmembraneに結合することを防いだ。その後TBSで5分間3回洗い、目的の抗体(一次抗体)を加えたTBSに浸しパラフィルムに挟み湿箱中で4℃14時間反応させ、memmbrane上の抗原ペプチドに一次抗体を結合させた。0.05%Tween20入りのTBS(TBST)でmembraneを5分間3回洗った。以下、発色までの操作はProtoBlot Western Blot AP System (Promega社製)を用いた。

アルカリホスファターゼの共有結合した抗ウサギ I g G 抗体 (二次抗体)をT B S T で 5 0 0 0 倍希釈し、その希釈液にmembraneを 4 ℃で 2 時間浸すことでme mbrane上の抗原 — 次抗体結合物に二次抗体を介してアルカリホスファターゼを結合させた。 T B S T でmembraneを 5 分間 3 回、 T B S で 5 分間 2 回洗い、その後membrane上のアルカリホスファターゼの存在を、発色剤 5-bromo-4-chloro-3-indolyl phosphate (B C I P) とnitro blue tetrazolium (N B T) をそれぞれ 0. 1 6 5 m g / m 1 と 0. 3 3 m g / m 1 の濃度で含む反応液(1 0 0 m M Tris-HCl (p H 9. 5), 1 0 0 m M N a C l, 5 m M M g C l₂)にmembraneを浸し紫色に発色させることで検出した。membraneを水に浸すことで反応を停止させた。

この実施例で用いた一次抗体はすべてウサギの抗血清のままであるが、抗血清からペプチドカラムによってアフィニテイ精製した I g G でも同様な結果が得られることを確認した。抗血清の希釈率は、anti-PS199が 1 0 0 0 倍、anti-PS202が 2 5 0 倍、anti-PT205が 5 0 0 倍、anti-PT231が 2 5 0 倍、anti-PS235が 2 5 倍、anti-rat PS235(anti-rPS235)が 2 5 倍、anti-PS262が 5 0 0 倍、anti-PS396が 1 0 0 0 倍、anti-PS404が 5 0 0 倍、anti-PS413が 5 0 0 倍、anti-PS422が 5 0 0 倍である。なお、コントロールとして配列番号 1 9 のアミノ酸配列で表されるペプチド(図 1 中、K1で示す、配列番号 1 の 2 2 6 番目から 2 4 0 番目のアミ

ノ酸配列で表されるペプチド)、配列番号 2 0 のアミノ酸配列で表されるペプチド(図1中、K2で示す、配列番号 1 の1 9 1 番目から 2 2 4 番目のアミノ酸配列で表されるペプチド)、配列番号 2 1 のアミノ酸配列で表されるペプチド(図1中、AK-K3で示す、配列番号 1 の 3 8 4 番目から 4 3 8 番目のアミノ酸配列で表されるペプチド)および配列番号 2 2 のアミノ酸配列で表されるペプチド(図1中、S262で示す、配列番号 1 の 2 5 7 番目から 2 6 7 番目のアミノ酸配列で表されるペプチドのN 末端にシステインを付加させたもの)の非リン酸化ペプチドを使用した。これらのペプチドは、上記製造例 1 の (イ)~(ロ)と同様にして製造した。

図1にドットブロットの結果を示す。横軸にドットでメンブレンに吸着させたペプチド、縦軸に抗体を示す。上記で得られた抗体がそれぞれのリン酸化部位に対して特異的に結合していることがわかる。

実施例2 抗体と試料との反応性の検討

(1) ヒト脳抽出液の調製

正常ヒト脳8例とアルツハイマー病患者脳19例を用いてヒト脳抽出液の調製を行った。また、以下の操作はすべて4℃で行った。

死後のヒト大脳皮質の凍結標品から1gを取り出し、TSinh溶液[50mM Tris-HCl(pH7.6)、0.15M NaCl、0.5mM DIFP(ジイソプロピルフルオロフォスフェート)、 1μ g/mlアンチパイン 、0.5m M PMSF、(フェニルメタンスルフォニルフルオリド)1mg/ml TL CK(トリシルーリシンークロロメチルケトン)、 1μ g/mlロイペプチン、 0.1μ g/mlペプスタチン]3ml中で剃刀で細かく刻み、超音波破砕し、さらにホモジナイザーにより懸濁液にした。80,000rpmで15分の遠心分離を行い、上清を得た。この上清中のヒトJgGをProtein G-Sepharose 4 Fa st Flow (Pharmacia社製)により除去して得た画分をTS画分とした。沈殿を前述のTSinh 2ml中で超音波破砕とホモジナイザーにより懸濁液にし80,000rpm、15分の遠心分離を行うことで洗浄し、その後この沈殿を1%T

riton X-100、TSinh 2ml中で超音波破砕とホモジナイザーにより懸濁液にした。この懸濁液に対し、80,000rpm、15分の遠心分離を行い、上清(TX画分)を得た。沈殿を1%Triton X-100、TSinh 2ml中で超音波破砕とホモジナイザーにより懸濁液にし、80,000rpm、15分の遠心分離を行うことで洗浄し、その後2%SDS、TSinh 2ml中で超音波破砕とホモジナイザーにより懸濁液にした。80,000rpm、15分の遠心分離を行い上清(SDS上清画分)を得た。沈殿を2%SDS、TSinh 2ml中で超音波破砕とホモジナイザーにより懸濁液にし、80,000rpm、15分の遠心分離を行うことで洗浄し、その後この沈殿を2%SDS、TSinh 2ml中で超音波破砕とホモジナイザーにより懸濁液にし、80,000rpm、15分の遠心分離を行うことで洗浄し、その後この沈殿を2%SDS、TSinh 2ml中で超音波破砕とホモジナイザーにより懸濁液(SDS沈殿画分)にした。

(2) リン酸化部位特異抗体による免疫ブロット

上記で得られた各画分にLaemmliのサンプル処理液(Nature, <u>227</u>, 680-685(19 70))を加え、95℃で5分間加熱し、SDSポリアクリルアミドゲル電気泳動し、Immmobilon P-membrane(Millipore社製)に転写した。5%スキムミルク、TBSで2時間ブロッキングした後、上記実施例1で得られたリン酸化部位特異抗体を一次抗体として14時間反応させた。Tween20、TBSで洗った後、Promega社のProtoBlot APにより二次抗体処理してメンブレン上の抗原抗体反応物を発色させた。

一次抗体はすべてウサギの IgGで、一次抗体の希釈率は実施例の図 $2 \sim \mathbb{Z} 4$ 中の各抗体の名称の下に x の次の数字で示した。ほとんどの一次抗体は抗原ペプチドカラムによってアフィニティ精製してあるが、 $PS262 \ge PS422$ は抗血清のままであり、図中のこれらの抗体名称の下に S を付して区別した。

Tau-NおよびTau-Cはそれぞれ製造例16および製造例17で得られたペプチドで、配列表の配列番号1で表されるヒトタウ蛋白質中、Tau-Nは2番目から12番目のアミノ酸配列に対応し、Tau-Cは422番目から438番目のアミノ酸配列に対応し、それぞれタウ蛋白質の存在を示すコントロールとして使用した。

なお、ポジティブコントロールとして生後8日目の幼若ラット全脳抽出液を使

WO 97/34145



用した。幼若夕ウ蛋白質は高度にリン酸化されたPHF中の夕ウ蛋白質として知られている(J. Biol. Chem., 268, 25712-25717(1993))。生後8日目の幼若ラット脳0.75gを、10mM Tris-HCl(pH7.4)、50mM NaСl、50mM NaF、1mM E D T A、1mM E G T A、50mM β - グリセロリン酸、10-4M Na $_3$ V O $_4$ 、1mM PMSF、1 μ g/m l アンチパイン、1 μ g/m l ロイペプチン、0.1 μ g/m l ペプスタチン、3 m M ベンズアミジンを含む培地1.5 m l 中でホモジナイズし、25,000 r p m で20分遠心分離を行った後の上清をポジティブコントロールとして使用した。

結果を図2、図3及び図4に示す。図2はTS画分の免疫ブロット結果を示し、図3及び図4はSDS沈殿画分の免疫ブロット結果を示す。図中、AD/Nの欄のAはアルツハイマー病患者脳抽出液の結果を、Nは正常脳抽出液の結果を示し、Mのレーンは分子量マーカーを、その隣の数字はマーカーの分子量をkDの単位で示す。rat P8のレーンはポジティブコントロールの免疫ブロット結果を示し、矢印で示したバンドがリン酸化タウ蛋白質のバンドを示す。

いずれの抗体も正常脳抽出液では反応せず、アルツハイマー病患者脳抽出液では反応しており、本発明の方法によりアルツハイマー病の検出が可能であることがわかる。また、TS画分は易溶性の夕ウ蛋白質を、SDS沈殿画分は難溶性の夕ウ蛋白質を含むため、本発明の方法によれば、組織中のリン酸化夕ウ蛋白質の存在だけでなく、易溶性夕ウ蛋白質を含むと思われる脳脊髄液または血中のリン酸化夕ウ蛋白質の存在も認識可能であり、試料として組織だけでなく脳脊髄液または血液も使用可能であることがわかる。

実施例3 抗ヒトリン酸化タウ蛋白抗体と試料とのラジオイムノアッセイ(R IA)による反応性の検討

(1) ¹²⁵ I 標識抗原の調製

(イ) Bolton-Hunter法による標識

製造例1~5 (配列表の配列番号3、13、15、16および2) に示したようにアミノ末端にリジンを付加したペプチドについては、次に述べる方法により

125 I 標識体を製造した。

 125 I $^{-}$ B $^{\circ}$ I t $^{\circ}$ n $^{-}$ H u n t e r 試薬のベンゼン溶液 1 8. $^{\circ}$ 5 M B $^{\circ}$ Q $^{\circ}$ 0 0 $^{\circ}$ C i ; D u P $^{\circ}$ n t 社、NEX $^{-}$ 1 2 0) を反応用試験管に取り、ベンゼンを窒素気流で揮散させた。これにペプチド 2 0 $^{\circ}$ g $^{\circ}$ 5 0 $^{\circ}$ $^{\circ}$ 1 0 5 0 0 m M 塩化ナトリウム 1 6 0 m M $^{\circ}$ 力酸緩衝液($^{\circ}$ p H 8. $^{\circ}$ 5)に溶解して加え、冷却下にときどきかき混ぜながら 2 時間反応させた。 1 0 % $^{\circ}$ $^{\circ}$ ウ $^{\circ}$ $^{\circ}$

(ロ)クロラミン-T法による標識

製造例 $6\sim14$ (配列表の配列番号 6、11、4、12、14、7、5、8、9)に示したようにアミノ末端にシステインを付加したペプチドについては、製造例 1 1 に準じた F moc E によってアミノ末端にシステインの代りにチロシンを付加したペプチドを合成し、次に述べる方法により 1^{25} I 標識体を製造した。ペプチド 10μ gを 50μ 1 の 0 2 Mリン酸緩衝液(p H 7 3)に溶解し、N a 1^{25} I 1 8 1 8 1 8 1 8 1 8 1 9 1 9 1 9 1 9 1 9 1 9 1 9 1 1 1 8 1 9 1 9 1 1 1 8 1 9 1 9 1 9 1 1 1 8 1 9 1 9 1 9 1 1 1 9 1 9 1 1 1 9 1 9 1 1 1 9 1 9 1 9 1 9 1 1 1 9 1 9 1 9 1 1 1 9 1

(イ)の場合と同様に逆相系 H P L C により精製、分画し、目的の分画をバイアル瓶に小分けし、凍結乾燥した。

(2)競合法RIA測定系

製造例 18 で調製した抗体のうち「anti-PS262」の例を以下に示す。 (1)で得られた 125 I - YPS262をRIA緩衝液 (0.1%BSA、0.05%アジ化ナトリウム、0.05% Tween20を含むDulbecco's PBS (-))に溶解してアッセイチューブに 100μ (約1万cpm)加えた。更に標準品としてアミノ酸定量したペプチドYPS262を0~1000fmol/mlの範囲で含有するRIA緩衝液 100μ と加えた。続いて、RIA緩衝液 300μ を加えた後、RIA緩衝液 100μ を加えた。続いて、RIA緩衝液 300μ を加えた後、RIA緩衝液にて1万倍に希釈した「anti-PS262」 100μ を加えてかき混ぜた。4 でで1晩インキュベートした後、RIA bufferで128倍に希釈した正常兎血清 100μ と32倍に希釈した抗兎IgG山羊血清 100μ 、更に8%ポリエチレングリコール(PEG6000)、0.2%セルロース粉末(Avicel(登録商標))を含むDulbecco's PBS (-)200 μ 1を加えてかき混ぜ、4 で 300分間インキュベートした。4 で 30000 rpm、200分間遠心分離した後、上清を吸引除去して沈渣の放射能をシンチレーションカウンターにて測定した。

横軸に標準物質濃度fmol/ml、縦軸に標準物質濃度0fmol/mlにおけるカウントに対する各濃度におけるカウントの比率をとってプロットして検量線を得た。この検量線を図5に示す。図5より、本発明の測定方法を用いれば、30fmol/mlまで精度よく測定可能であることがわかる。

更に、製造例11に準じたFmoc法によってアミノ末端にシステインを付加せず、セリンがリン酸化されていない配列表の配列番号10の誘導体ペプチドS262を合成して抗体antiPS262の特異性を評価したところ、S262を2000 fmol/mlの濃度まで添加してもカウントが低下せず、本発明における抗体は、リン酸化セリンを含むPS262を特異的に認識していることが判明した。

- (3) 患者脳脊髄液中のリン酸化タウ蛋白の測定
- (2)の手法および検量線を用いて、アルツハイマー病患者(AD)8名の脳脊髄液中のリン酸化タウ蛋白質濃度を測定した。コントロール(CTL)として非痴呆患者7名の脳脊髄液中のリン酸化タウ蛋白質濃度を測定した。結果を図6に示す。図6に示されるとおり、CTLではいずれもリン酸化タウ蛋白質が検出されなかったのに対し、ADでは $45\sim76\ fmol/ml$ のリン酸化タウ蛋白質が検出された。

産業上の利用可能性

本発明によれば、PHF中のリン酸化タウ蛋白質のリン酸化部位を含む部分ペプチドを免疫原として用いてリン酸化タウ蛋白質を特異的に認識する抗体を提供することができる。また、得られた抗体を用いて脳抽出液、組織切片中のリン酸化タウ蛋白質を確認することができる。更に、この抗体を用いる本発明のリン酸化タウ蛋白質の測定方法は、体液中のリン酸化タウ蛋白質を簡便に測定することが可能であり、アルツハイマー病の検出に有用である。



配列表

.(1)一般情報

- (i) 出願人: 三菱化学株式会社
- (ii) 発明の名称: 抗リン酸化タウ蛋白抗体及びそれを用いるアルツハイマー 病の検出方法
 - (iii) 配列数: 22
 - (vi) 現行出願データ
 - (A)出願番号
 - (B)出願日
 - (C)分類
 - (vi) 先の出願データ
 - (A)出願番号: JP 8/56090
 - (B)出願日: 13-MAR-1996

(2) 配列番号1の配列の情報:

- (i) 配列の性質:
 - (A) 配列の長さ: 441 amino acids
 - (B) 配列の型: アミノ酸
 - (C) 鎖の数: 一本鎖
 - (D) トポロジー: 直鎖状
- (ii) 配列の種類: タンパク質
- (xi) 配列: SEQ ID NO:1:

Met Ala Glu Pro Arg Gln Glu Phe Glu Val Met Glu Asp His Ala Gly

1

5

10

15

Gln Asp Thr Tyr Gly Leu Gly Asp Arg Lys Asp Gln Gly Gly Tyr Thr

20

25

30

Met His Gln Glu Gly Asp Thr Asp Ala Gly Leu Lys Glu Ser Pro Leu

35

40

45

Gln	Thr	Pro	Thr	G1u	Asp	Gly	Ser	Glu	G1u	Pro	Gly	Ser	G1u	Thr	Ser
	50					55					60	-			
Asp	Ala	Lys	Ser	Thr	Pro	Thr	Ala	Glu	Asp	Val	Thr	Ala	Pro	Leu	Val
65					70					75					80
Asp	Glu	Gly	Ala	Pro	Gly	Lys	Gln	Ala	Ala	Ala	G1n	Pro	His	Thr	G1u
				85					90					95	
Ile	Pro	Glu	Gly	Thr	Thr	Ala	G1u	Glu	Ala	Gly	lle	Gly	Asp	Thr	Pro
			100					105					110		
Ser	Leu	Glu	Asp	Glu	Ala	Ala	G1y	His	Val	Thr	Gln	Ala	Arg	Met	Val
		115					120					125			
Ser	Lys	Ser	Lys	Asp	Gly	Thr	G1y	Ser	Asp	Asp	Lys	Lys	Ala	Lys	Gly
	130					135					140				
Ala	Asp	Gly	Lys	Thr	Lys	Ile	Ala	Thr	Pro	Arg	G1y	Ala	Ala	Pro	Pro
145					150					155					160
Gly	Gln	Lys	Gly	G1n	Ala	Asn	Ala	Thr	Arg	lle	Pro	Ala	Lys	Thr	Pro
				165					170					175	
Pro	Ala	Pro	Lys	Thr	Pro	Pro	Ser	Ser	Gly	Glu	Pro	Pro	Lys	Ser	Gly
			180					185					190		
Asp	Arg	Ser	Gly	Tyr	Ser	Ser	Pro	Gly	Ser	Pro	Gly	Thr	Pro	G1y	Ser
		195					200					205			
Arg	Ser	Arg	Thr	Pro	Ser	Leu	Pro	Thr	Pro	Pro	Thr	Arg	G1u	Pro	Lys
	210					215					220				
Lys	Val	Ala	Val	Val	Arg	Thr	Pro	Pro	Lys	Ser	Pro	Ser	Ser	Ala	Lys
225					230					235					240
Ser	Arg	Leu	G1n	Thr	Ala	Pro	Val	Pro	Met	Pro	Asp	Leu	Lys	Asn	Val
				245					250					255	
Lys	Ser	Lys	Ile	Gly	Ser	Thr	G1u	Asn	Leu	Lys	His	G1n	Pro	G1y	Gly
			260					265					270		



PCT/JP97/00804

Gly	Lys	Val	Gln	lle	Ile	Asn	Lys	Lys	Leu	Asp	Leu	Ser	Asn	Val	Gln
		275					280					285			
Ser	Lys	Cys	Gly	Ser	Lys	Asp	Asn	lle	Lys	His	Val	Pro	Gly	Gly	Gly
	290					295					300				
Ser	Val	Gln	lle	Val	Tyr	Lys	Pro	Val	Asp	Leu	Ser	Lys	Val	Thr	Ser
305					310					315					320
Lys	Cys	Gly	Ser	Leu	Gly	Asn	lle	His	His	Lys	Pro	Gly	Gly	Gly	G1n
				325					330					335	
Val	Glu	Val	Lys	Ser	Glu	Lys	Leu	Asp	Phe	Lys	Asp	Arg	Val	Gln	Ser
			340					345					350		
Lys	lle	Gly	Ser	Leu	Asp	Asn	lle	Thr	His	Val	Pro	Gly	Gly	G1y	Asn
		355					360					365			
Lys	Lys	lle	Glu	Thr	His	Lys	Leu	Thr	Phe	Arg	Glu	Asn	Ala	Lys	Ala
	370					375					380				
Lys	Thr	Asp	llis	Gly	Ala	Glu	lle	Val	Tyr	Lys	Ser	Pro	Val	Val	Ser
385					390					395					400
Gly	Asp	Thr	Ser	Pro	Arg	His	Leu	Ser	Asn	Val	Ser	Ser	Thr	Gly	Ser
				405					410					415	
lle	Asp	Met	Val	Asp	Ser	Pro	Gln	Leu	Ala	Thr	Leu	Ala	Asp	Glu	Val
			420					425					430		
Ser	Ala	Ser	Leu	Ala	Lys	Gln	Gly	Leu							
		435					440								

(2) 配列番号2の配列の情報:

(i) 配列の性質:

- (A) 配列の長さ: 12 amino acids
- (B) 配列の型: アミノ酸
- (C) 鎖の数: 一本鎖
- (D) トポロジー: 直鎖状

- (ii) 配列の種類:ペプチド
- (ix) 配列の特徴:
 - (A) 特徴を表す記号:
 - (B) 存在位置: 6
 - (D) 他の情報: Xaa = phosphoserine
- (xi) 配列: SEQ ID NO:2:

Lys Ser Gly Tyr Ser Xaa Pro Gly Ser Pro Gly Thr

1

5

10

- (2) 配列番号3の配列の情報:
 - (i) 配列の性質:
 - (A) 配列の長さ: 13 amino acids
 - (B) 配列の型: アミノ酸
 - (C) 鎖の数: 一本鎖
 - (D) トポロジー: 直鎖状
 - (ii) 配列の種類:ペプチド
 - (ix) 配列の特徴:
 - (A) 特徴を表す記号:
 - (B) 存在位置: 6
 - (D) 他の情報: Xaa = phosphoserine
 - (xi) 配列: SEQ ID NO:3:

Lys Ser Ser Pro Gly Xaa Pro Gly Thr Pro Gly Ser Arg

1

5

10

- (2) 配列番号4の配列の情報:
 - (i) 配列の性質:
 - (A) 配列の長さ: 12 amino acids
 - (B) 配列の型: アミノ酸
 - (C) 鎖の数: 一本鎖
 - (D) トポロジー: 直鎖状



- 29 -
- (ii) 配列の種類: ペプチド
- (ix) 配列の特徴:
 - (A) 特徴を表す記号:
 - (B) 存在位置: 7
 - (D) 他の情報: Xaa = phosphothreonine
- (xi) 配列: SEQ ID NO:4:

Cys Pro Gly Ser Pro Gly Xaa Pro Gly Ser Arg Ser

1

5

10

- (2) 配列番号5の配列の情報:
 - (i) 配列の性質:
 - (A) 配列の長さ: 13 amino acids
 - (B) 配列の型: アミノ酸
 - (C) 鎖の数: 一本鎖
 - (D) トポロジー: 直鎖状
 - (ii) 配列の種類: ペプチド
 - (ix) 配列の特徴:
 - (A) 特徴を表す記号:
 - (B) 存在位置: 6
 - (D) 他の情報: Xaa = phosphoserine
 - (xi) 配列: SEQ ID NO:5:

Lys Ser Xaa Pro Gly Xaa Pro Gly Thr Pro Gly Ser Arg

1

5

10

- (2) 配列番号6の配列の情報:
 - (i) 配列の性質:
 - (A) 配列の長さ: 14 amino acids
 - (B) 配列の型: アミノ酸
 - (C) 鎖の数: 一本鎖
 - (D) トポロジー: 直鎖状

(ii)	配列	の	種類:	ペナ	チ	۲
------	----	---	-----	----	---	---

- (ix) 配列の特徴:
 - (A) 特徴を表す記号:
 - (B) 存在位置: 7
 - (D) 他の情報: Xaa = phosphothreonine
- (xi) 配列: SEQ ID NO:6:

Cys Val Ala Val Val Arg Xaa Pro Pro Lys Ser Pro Ser Ser

1 5

10

(2) 配列番号7の配列の情報:

- (i) 配列の性質:
 - (A) 配列の長さ: 12 amino acids
 - (B) 配列の型: アミノ酸
 - (C) 鎖の数: 一本鎖
 - (D) トポロジー: 直鎖状
- (ii) 配列の種類: ペプチド
- (ix) 配列の特徴:
 - (A) 特徴を表す記号:
 - (B) 存在位置: 7
 - (D) 他の情報: Xaa = phosphoserine
- (xi) 配列: SEQ ID NO:7:

Cys Arg Thr Pro Pro Lys Xaa Pro Ser Ser Ala Lys

1

5

10

(2) 配列番号8の配列の情報:

- (i) 配列の性質:
 - (A) 配列の長さ: 12 amino acids
 - (B) 配列の型: アミノ酸
 - (C) 鎖の数: 一本鎖
 - (D) トポロジー: 直鎖状





- (ii) 配列の種類:ペプチド
- (ix) 配列の特徴:
 - (A) 特徴を表す記号:
 - (B) 存在位置: 7
 - (D) 他の情報: Xaa = phosphoserine
- (xi) 配列: SEQ ID NO:8:

Cys Arg Thr Pro Pro Lys Xaa Pro Ser Ala Ser Lys

1

5

10

- 31 -

- (2) 配列番号9の配列の情報:
 - (i) 配列の性質:
 - (A) 配列の長さ: 12 amino acids
 - (B) 配列の型: アミノ酸
 - (C) 鎖の数: 一本鎖
 - (D) トポロジー: 直鎖状
 - (ii) 配列の種類:ペプチド
 - (ix) 配列の特徴:
 - (A) 特徴を表す記号:
 - (B) 存在位置: 3
 - (D) 他の情報: Xaa = phosphothreonine
 - (ix) 配列の特徴:
 - (A) 特徴を表す記号:
 - (B) 存在位置: 7
 - (D) 他の情報: Xaa = phosphoserine
 - (xi) 配列: SEQ ID NO:9:

Cys Arg Xaa Pro Pro Lys Xaa Pro Ser Ser Ala Lys

1

5

10

- (2) 配列番号10の配列の情報:
 - (i) 配列の性質:

- (A) 配列の長さ: 12 amino acids
- (B) 配列の型: アミノ酸
- (C)鎖の数: 一本鎖
- (D) トポロジー: 直鎖状
- (ii) 配列の種類:ペプチド
- (ix) 配列の特徴:
 - (A) 特徴を表す記号:
 - (B) 存在位置: 7
 - (D) 他の情報: Xaa = phosphoserine
- (xi) 配列: SEQ ID NO:10:

Cys Lys Ser Lys Ile Gly Xaa Thr Glu Asn Leu Lys

1

5

10

- (2) 配列番号11の配列の情報:
 - (i) 配列の性質:
 - (A) 配列の長さ: 12 amino acids
 - (B) 配列の型: アミノ酸
 - (C) 鎖の数: 一本鎖
 - (D) トポロジー: 直鎖状
 - (ii) 配列の種類:ペプチド
 - (ix) 配列の特徴:
 - (A) 特徴を表す記号:
 - (B) 存在位置: 7
 - (D) 他の情報: Xaa = phosphoserine
 - (xi) 配列: SEQ ID NO:11:

Cys Glu Ile Val Tyr Lys Xaa Pro Val Val Ser Gly

1

5

10

- (2) 配列番号12の配列の情報:
 - (i) 配列の性質:



- 33 -



- (A) 配列の長さ: 12 amino acids
- (B) 配列の型: アミノ酸
- (C) 鎖の数: 一本鎖
- (D) トポロジー: 直鎖状
- (ii) 配列の種類: ペプチド
- (ix) 配列の特徴:
 - (A) 特徴を表す記号:
 - (B) 存在位置: 7
 - (D) 他の情報: Xaa = phosphoserine
- (xi) 配列: SEQ ID NO:12:

Cys Val Ser Gly Asp Thr Xaa Pro Arg His Leu Ser

1 5 10

- (2) 配列番号13の配列の情報:
 - (i) 配列の性質:
 - (A) 配列の長さ: 12 amino acids
 - (B) 配列の型: アミノ酸
 - (C) 鎖の数: 一本鎖
 - (D) トポロジー: 直鎖状
 - (ii) 配列の種類:ペプチド
 - (ix) 配列の特徴:
 - (A) 特徴を表す記号:
 - (B) 存在位置: 7
 - (D) 他の情報: Xaa = phosphoserine
 - (xi) 配列: SEQ ID NO:13:

Lys Leu Ser Asn Val Ser Xaa Thr Gly Ser Ile Asp

1 5 10

- (2) 配列番号14の配列の情報:
 - (i) 配列の性質:

- (A) 配列の長さ: 12 amino acids
- (B) 配列の型: アミノ酸
- (C) 鎖の数: 一本鎖
- (D) トポロジー: 直鎖状
- (ii) 配列の種類: ペプチド
- (ix) 配列の特徴:
 - (A) 特徴を表す記号:
 - (B) 存在位置: 7
 - (D) 他の情報: Xaa = phosphoserine
- (xi) 配列: SEQ ID NO:14:

Cys Ile Asp Met Val Asp Xaa Pro Gln Leu Ala Thr

1 5 10

- (2) 配列番号15の配列の情報:
 - (i) 配列の性質:
 - (A) 配列の長さ: 12 amino acids
 - (B) 配列の型: アミノ酸
 - (C) 鎖の数: 一本鎖
 - (D) トポロジー: 直鎖状
 - (ii) 配列の種類:ペプチド
 - (ix) 配列の特徴:
 - (A) 特徴を表す記号:
 - (B) 存在位置: 6
 - (D) 他の情報: Xaa = phosphoserine
 - (xi) 配列: SEQ ID NO:15:

Lys Leu Ser Asn Val Xaa Ser Thr Gly Ser Ile Asp

1 5 10

- (2) 配列番号16の配列の情報:
 - (i) 配列の性質:





- (B) 配列の型: アミノ酸
- (C) 鎖の数: 一本鎖
- (D) トポロジー: 直鎖状
- (ii) 配列の種類: ペプチド
- (ix) 配列の特徴:
 - (A) 特徴を表す記号:
 - (B) 存在位置: 6
 - (D) 他の情報: Xaa = phosphoserine
- (ix) 配列の特徴:
 - (A) 特徴を表す記号:
 - (B) 存在位置: 7
 - (D) 他の情報: Xaa = phosphoserine
- (xi) 配列: SEQ ID NO:16:

Lys Leu Ser Asn Val Xaa Xaa Thr Gly Ser Ile Asp

1 5 10

(2) 配列番号17の配列の情報:

- (i) 配列の性質:
 - (A) 配列の長さ: 17 amino acids
 - (B) 配列の型: アミノ酸
 - (C) 鎖の数: 一本鎖
 - (D) トポロジー: 直鎖状
 - (ii) 配列の種類: ペプチド
 - (xi) 配列: SEQ ID NO:17:

Ser Pro Gln Leu Ala Thr Leu Ala Asp Glu Val Ser Ala Ser Leu Ala Lys

1 5 10 15

- (2) 配列番号18の配列の情報:
 - (i) 配列の性質:

1

	- 30 -	
	(A)配列の長さ: 12 amino acids	
	(B) 配列の型: アミノ酸	
	(C)鎖の数:一本鎖	
	(D) トポロジー: 直鎖状	
	(ii)配列の種類:ペプチド	
	(xi) 配列: SEQ ID NO:18:	
Ala	Glu Pro Arg Gln Glu Phe Glu Val Met Glu Cys	
1	5 10	
(2)	配列番号19の配列の情報:	
(2)	(i)配列の性質:	
	(A)配列の長さ: 15 amino acids	
	(B) 配列の型: アミノ酸	
	(C)鎖の数:一本鎖	
	(D)トポロジー: 直鎖状	
	(ii) 配列の種類: ペプチド	
	(xi) 配列: SEQ ID NO:19:	
Val	Ala Val Val Arg Thr Pro Pro Lys Ser Pro Ser Ser Ala Ly	/S
1	5 10	15
(2)	配列番号20の配列の情報:	
(2)	(i) 配列の性質:	
	(A)配列の長さ: 34 amino acids	
	(B) 配列の型: アミノ酸	
	(C)鎖の数:一本鎖	
	(D) トポロジー: 直鎖状	
	(ii)配列の種類:ペプチド	
	(xi) 配列: SEQ ID NO:20:	
Ser	Gly Asp Arg Ser Gly Tyr Ser Ser Pro Gly Ser Pro Gly Th	ır Pro
1	5 10	15

- 37 -

Gly Ser Arg Ser Arg Thr Pro Ser Leu Pro Thr Pro Pro Thr Arg Glu
20 25 30

Pro Lys

- (2) 配列番号21の配列の情報:
 - (i) 配列の性質:
 - (A) 配列の長さ: 55 amino acids
 - (B) 配列の型: アミノ酸
 - (C) 鎖の数: 一本鎖
 - (D) トポロジー: 直鎖状
 - (ii) 配列の種類:ペプチド
 - (xi) 配列: SEQ ID NO:21:

Ala Lys Thr Asp His Gly Ala Glu Ile Val Tyr Lys Ser Pro Val Val

1 5 10 15

Ser Gly Asp Thr Ser Pro Arg His Leu Ser Asn Val Ser Ser Thr Gly
20 25 30

Ser Ile Asp Met Val Asp Ser Pro Gln Leu Ala Thr Leu Ala Asp Glu
35 40 45

Val Ser Ala Ser Leu Ala Lys 50 55

- (2) 配列番号22の配列の情報:
 - (i) 配列の性質:
 - (A) 配列の長さ: 12 amino acids
 - (B) 配列の型: アミノ酸
 - (C) 鎖の数: 一本鎖
 - (D) トポロジー: 直鎖状
 - (ii) 配列の種類:ペプチド
 - (xi) 配列: SEQ ID NO:22:

Cys Lys Ser Lys Ile Gly Ser Thr Glu Asn Leu Lys

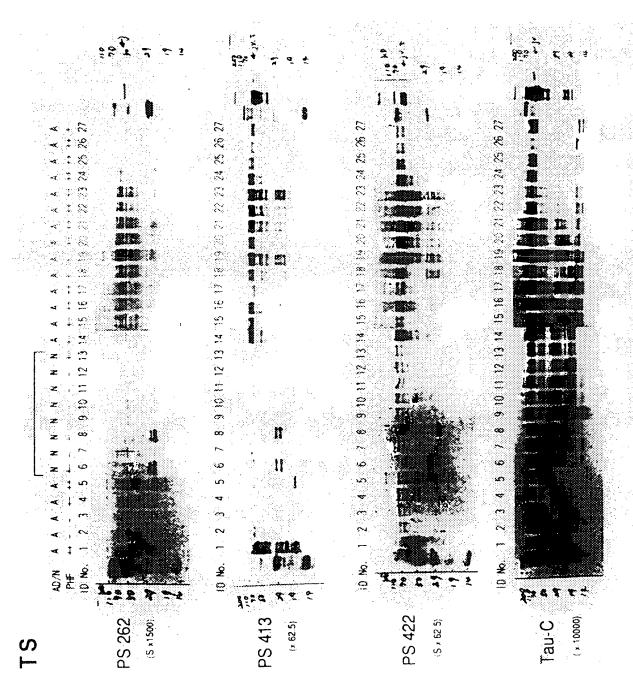
1 5 10

請求の範囲

- 1. ペアード・ヘリカル・フィラメント (Paired Helical Filament) 中のリン酸 化タウ蛋白質のリン酸化部位を含む部分ペプチドを免疫原とする抗体。
- 2. リン酸化タウ蛋白質のリン酸化部位が、配列表の配列番号1で表されるアミノ酸配列中の198番目のセリン、199番目のセリン、202番目のセリン、205番目のスレオニン、235番目のセリン、262番目のセリン、396番目のセリン、403番目のスレオニン、404番目のセリン、409番目のセリン、413番目のセリン及び42番目のセリンから選ばれる1以上のアミノ酸である請求項1に記載の抗体。
- 3. リン酸化タウ蛋白質のリン酸化部分が、配列表の配列番号1で表されるアミノ酸配列中の199番目のセリン、202番目のセリン、205番目のスレオニン、231番目のスレオニン、235番目のセリン、262番目のセリン、396番目のセリン、404番目のセリン、412番目のセリン、413番目のセリン及び422番目のセリンから選ばれる1以上のアミノ酸である請求項1に記載の抗体。
- 4. リン酸化部位を含む部分ペプチドがそのリン酸化部位のアミノ酸残基とその前および/または後の複数個のアミノ酸残基を含むペプチドである請求項1から3のいずれかに記載の抗体。
- 5. リン酸化部位を含む部分ペプチドが配列表の配列番号2から16のいずれかに記載のアミノ酸配列で表される請求項1から4のいずれかに記載の抗体。
- 6. 少なくとも、請求項1~5のいずれかに記載の抗体よりなる、アルツハイマー病の検出に用いるための試薬キット。
- 7. 請求項1~5のいずれかに記載の抗体と、アルツハイマー病の疑いのある個体から得られた試料との反応性を調べることを特徴とするアルツハイマー病の検出方法。

the man			235				ep	tic	le						
	S 19	P S 20	_ PT205	S	- PS235	- rPS235	- PS262	- PS396	- PS404	- PS413	- PS422	\	2	- AK-K3	- \$262
anti-PS199	0														
anti-PS202		\bigcirc													
anti-PT205			•												
anti-PT231				0			•								
anti-PS235			Ye.												
anti-rPS235		(4)	4		C		i ,		ie					i.	• ••
anti-PS262							•								
anti-PS396								•)						
anti-PS404							,	·.	0	<i>2</i>					
anti-PS413						•	•	.,;;	.,	0			•		
anti-PS422											C				
	PS 199	PS202 -	PT205 -	PT231 -	N	rPS235-	\$262	S 39	\$40	ဟ	(A)	L	2	AK-K3	6860

THIS TO SEE BLANK (USPTO)

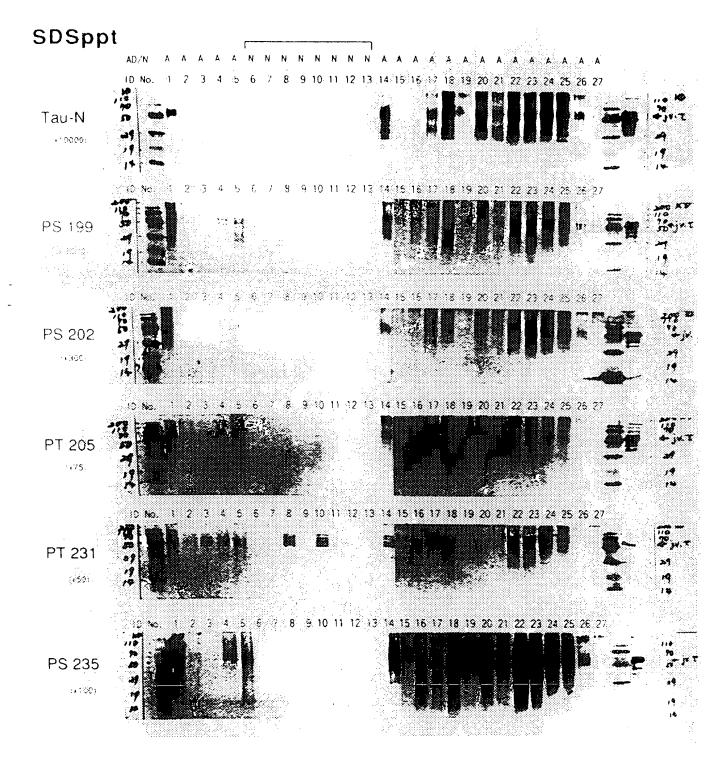


10 No. 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 7 18 19 15 21 22 23 24 25 26 27

FIG. 2

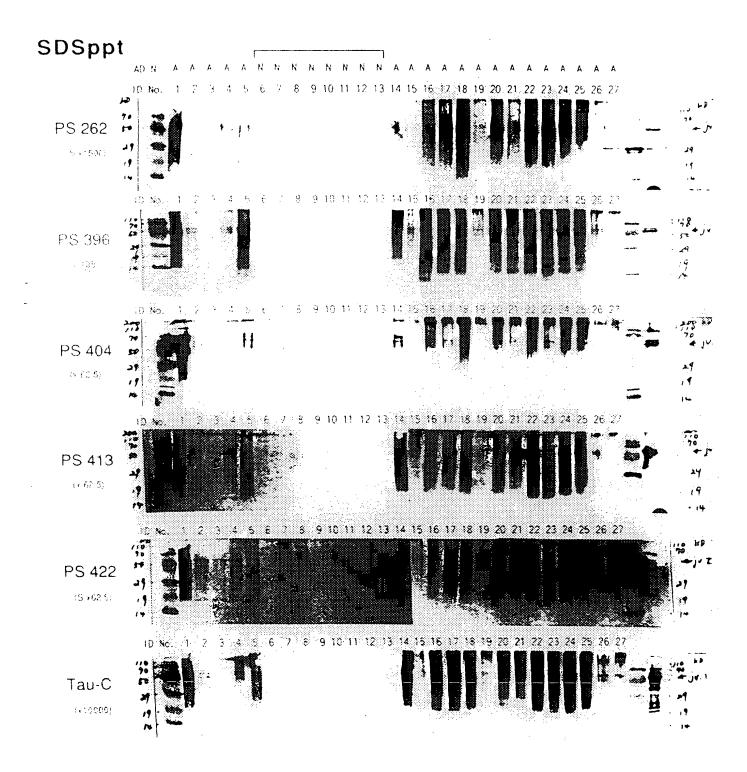
3/6

FIG. 3

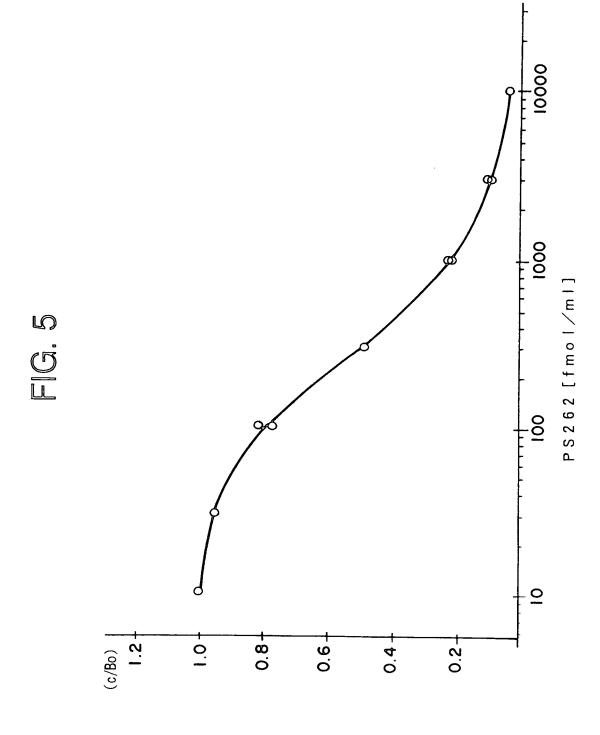


4/6

FIG. 4

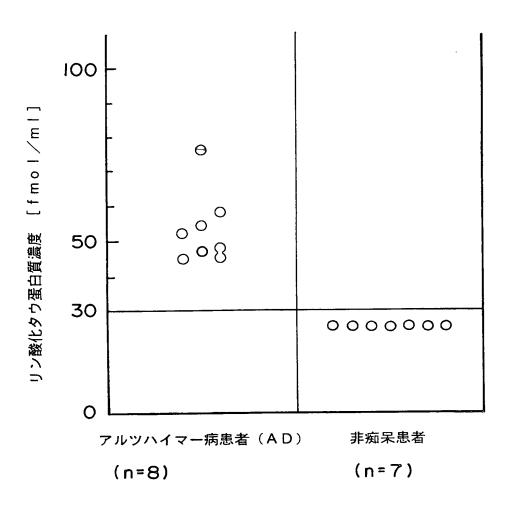


5/6



6/6

FIG. 6



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP97/00804

	SSIFICATION OF SUBJECT MATTER	: ,					
	. C1 ⁶ G01N33/53, C07K16/18						
According	to International Patent Classification (IPC) or to both n	ational classification and IPC					
	DS SEARCHED						
	Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols) Int. C1 ⁶ G01N33/53						
Jit Kok Tor	tion searched other than minimum documentation to the ex suyo Shinan Koho ai Jitsuyo Shinan Koho oku Jitsuyo Shinan Koho	1926 - 1996 1971 - 1996 1994 - 1997					
Electronic d	ata base consulted during the international search (name of	f data base and, where practicable, search to	erms used)				
CAS	ONLINE						
C. DOC	JMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT						
Category*	Citation of document, with indication, where ap	propriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.				
Х	<pre>X Proc. Natl. Acad. Sci., Vol. 89 (1992)</pre>						
х	Neurobiology of Aging, Vol. 16, No. 3 (1995) R. Nuydens "Neuronal Kinase Stimulation Leads to Aberrant Tau Phosphorylation and Neurotoxicity" p. 465-477 ABSTRACT						
х	Biochemical Journal, Vol. 3 "Epitope mapping of monoclopaired helical filaments of disease" p. 871-877 ABSTRAC	1 - 7					
Furth	ner documents are listed in the continuation of Box C.	See patent family annex.					
* Specia	al categories of cited documents: nent defining the general state of the art which is not considered of particular relevance	"T" later document published after the inte date and not in conflict with the appli the principle or theory underlying the	cation but cited to understand				
"L" docum	document but published on or after the international filing date ment which may throw doubts on priority claim(s) or which is to establish the publication date of another citation or other il reason (as specified)	"X" document of particular relevance; the considered novel or cannot be considered movel or cannot be considered when the document is taken along "Y" document of particular relevance; the	dered to involve an inventive				
I -	nent referring to an oral disclosure, use, exhibition or other	annidered to involve an inventive	step when the document is documents, such combination				
	nent published prior to the international filing date but later than iority date claimed	"&" document member of the same paten					
Date of the	e actual completion of the international search	Date of mailing of the international sea	rch report				
Mai	sch 27, 1997 (27. 03. 97)	April 8, 1997 (08	. 04. 97)				
Name and	mailing address of the ISA/	Authorized officer					
Jap	panese Patent Office						
Facsimile	No.	Telephone No.					

国際調査報告

国際出願番号 PCT/JP97/00804

A. 発明の原	属する分野の分類(国際特許分類 (IPC))								
Int.	C1° G01N33/53, C07K16/18								
B. 調査を行	B. 調査を行った分野								
	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	A SAME							
Int.	C1 G01N33/53								
日本 日本	トの資料で調査を行った分野に含まれるもの 国実用新案公報 1926-1996年 国公開実用新案公報 1971-1996年 国登録実用新案公報 1994-1997年								
	Bした電子データベース(データベースの名称、 AS ONLINE	調査に使用した用語)							
C. 関連する	5と認められる文献								
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連すると	きけ その関連する簡所の表示	関連する 請求の笕囲の番号						
X Proc. Natl. Acad. Sci., 第89巻(1992) B. Lichtenberg-Kraag"Phosphorylation-depend ent epitopes of neurofilament antibodies on tau protein and relationship with Alzheimer tau" p5384-5388 ABSTRACT X Neurobiology of Aging, 第16巻第3号 (1995) R. Nuydens"Neuronal Kinase Stimulation Leads to Aberrant Tau Phosphorylation and Neurotoxicity" p465-477 ABSTR ACT X Biochemical Journal, 第301巻 (1994) M. Goedert "Epitope mapping of monoclonal tibodies to the paired helical filaments of Alzheimer's disease" p871-877 ABSTRACT									
□ C和の続き	きにも文献が列挙されている。	□ パテントファミリーに関する別	紙を参照。						
もの 「E」先行文章 の 「L」優先権 日若し 文献(J 「O」口頭に	のカテゴリー 車のある文献ではなく、一般的技術水準を示す 献ではあるが、国際出願日以後に公表されたも 主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行 くは他の特別な理由を確立するために引用する 理由を付す) よる開示、使用、展示等に言及する文献 額日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願	の日の後に公表された文献 「T」国際出願日又は優先日後に公表で出願と矛盾するものではなく、論の理解のために引用するもの 「X」特に関連のある文献であって、第の新規性又は進歩性がないと考え 「Y」特に関連のある文献であって、第上の文献との、当業者にとって「よって進歩性がないと考えられる。同一パテントファミリー文献	発明の原理又は理 当該文献のみで発明 さられるもの 当該文献と他の1以 自明である組合せに						
国際調査を完 27.03.9		国際調査報告の発送日 08.0	4.97						
日本	の名称及びあて先 国特許庁(ISA/JP) 郵便番号100 ##	特許庁審査官(権限のある職員) - 日 山村祥子 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日) /						
果 果 泉	都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号	電話番号 03-3581-1101	MRRJ Z J Z						

E P



PCT

国際調査報告

(法8条、法施行規則第40、41条) [PCT18条、PCT規則43、44]

出願人又は代理人 F の書類記号 C	F 1 3 3 0 P C O P 5 3 7	今後の手続きに	ついて		告の送付通知様式 を参照すること。		SA/220)		
国際出願番号 PCT/JP97/0		国際出願日	13.	03.97	優先日 (日.月.年)	25.03.	9 6		
出願人(氏名又は名称	出願人(氏名又は名称) 三井石油化学工業株式会社								
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·									
国際調査機関が作成し この写しは国際事務局			則第41	条 (PCT18	条)の規定に従い	ハ出願人に送付	する。		
この国際調査報告は、	全部で2_	_ ページである	•						
□ この調査報告に引	用された先行打	を術文献の写しも	添付され	れている。					
1. 調求の範囲	目の一部の調査が	「できない(第I	欄参照)) .					
2.	-性が欠如してレ	ヽる(第Ⅱ欄参照) .						
3. □ この国際出願は、ヌクレオチド及び/又はアミノ酸配列リストを含んでおり、次の配列リストに基づき国際調査を行った。									
□ この国内	引出願と共に提出	言されたもの							
□ 出願人か	ぶこの国際出願と	: は別に提出した	もの				٠		
□ しか	ょし、出願時の国	国際出願の開示の	範囲を	越える事項を含	まない旨を記載し	した書面が添付	されていない		
□ この国際	※調査機関が書換	きえたもの							
4. 発明の名称は	x 出願人が扱	是出したものを承	認する。	,		=			
	□ 次に示す』	こうに国際調査機	関が作り	成した。					
							· 		
5. 要約は	x 出願人が扱	是出したものを承	認する。	3					
	査機関が作		は、こ	の国際調査報告	(PCT規則38. の発送の日から)				
C 断例争ししょーハ	****				•				
6. 要約書とともに公 第 <u>1</u> 図とする。		ミしたとおりであ	る。		しなし				
**	出願人は図	を示さなかった	•						
	本図は発明	月の特徴を一層よ	く表し [、]	ている。					

A. 発明の属する分野の分類(国際特許分類(IPC))

Int. C1 6 B29C47/20

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料(国際特許分類(IPC))

Int. C1 6 B29C47/00-47/96

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報 1926-1997年 日本国公開実用新案公報 1971-1997年

国際調査で使用した電子データベース(データベースの名称、調査に使用した用語)

C. 関連すると認められる文献

U. DE 7	5 と 	
引用文献の		関連する
カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	請求の範囲の番号
A	JP, 4-135731, A (三菱樹脂株式会社), 11.5月.1992 (11.05.92), 図1 (ファミリーなし)	1 – 8
A	JP, 4-33246, B2 (キョーラク株式会社), 02.6月.1992 (02 .06.92),第4欄第9-12行,図1 (ファミリーなし)	1 – 8
A	JP, 45-36437, B1 (住友化学工業株式会社), 19. 11月. 1970 (19. 11. 70), 図面 (ファミリーなし)	1 – 8

Ⅰ C欄の続きにも文献が列挙されている。

「 | パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

- 「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示す もの
- 「E」先行文献ではあるが、国際出願日以後に公表されたもの
- 「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行 日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する 文献(理由を付す)
- 「〇」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
- 「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

- 「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって て出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理 論の理解のために引用するもの
- 「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明 の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
- 「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以 上の文献との、当業者にとって自明である組合せに よって進歩性がないと考えられるもの
- 「&」同一パテントファミリー文献

PATENT COOPERATION TREATY

PCT

NOTICE INFORMING THE APPLICANT OF THE COMMUNICATION OF THE INTERNATIONAL APPLICATION TO THE DESIGNATED OFFICES

(PCT Rule 47.1(c), first sentence)

Date of mailing (day/month/year)

18 September 1997 (18.09.97)

Applicant's or agent's file reference 97021PCOP551

International application No.

PCT/JP97/00304

International filing date (day/month/year)

13 March 1997 (13.03.97)

Priority date (day month-year) 13 March 19^c... (13.03.96)

IMPORTANT NOTICE

å 0,40

From the INTERNATIONAL BUREAU

J.~

TOYAMA, Tsutomu

Yokoyama Buildina

4-10, Higashi Nihonbas

6th floor

Chuo-ku

Tokyo 103 **JAPON**

Applicant

MITSUBISHI CHEMICAL CORPORATION et al

1. Notice is hereby given that the International Bureau has communicated, as provided in Article 20, the international application to the following designated Offices on the date indicated above as the date of mailing of this Notice: CA, EP, JP, US

In accordance with Rule 47.1(c), third sentence, those Offices will accept the present Notice as conclusive evidence that the communication of the international application has duly taken place on the date of mailing indicated above and no copy of the international application is required to be furnished by the applicant to the designated Office(s).

2. The following designated Offices have waived the requirement for such a communication at this time:

None

The communication will be made to those Offices only upon their request. Furthermore, those Offices do not require the applicant to furnish a copy of the international application (Rule 49.1(a-r-)

3. Enclosed with this Notice is a copy of the international application as published by the International Bureau on 18 September 1997 (18.09.97) under No. WO 97/34145

REMINDER REGARDING CHAPTER II (Article 31(2)(a) and Rule 54.2)

If the applicant wishes to postpone entry into the national phase until 30 months for later in some Offices) from the priority date, a demand for international preliminary examination must be filed with the competent International Preliminary Examining Authority before the expiration of 19 months from the priority date.

It is the applicant's sole responsibility to monitor the 19-month time limit.

Note that only an applicant who is a national or resident of a PCT Contracting State which is bound by Chapter II has the right to file a demand for international preliminary examination.

REMINDER REGARDING ENTRY INTO THE NATIONAL PHASE (Article 22 or 39(1))

If the applicant wishes to proceed with the international application in the national phase, he must, within 20 months or 30 months, or later in some Offices, perform the acts referred to therein before each designated or elected Office.

For further important information on the time limits and acts to be performed for entering the national phase, see the Annex to Form PCT/IB/301 (Notification of Receipt of Record Copy) and Volume II of the PCT Applicant's Guide.

The International Bureau of WIPO 34, chemin des Colombettes 1211 Geneva 20, Switzerland

Authorized officer

J. Zahra

Telephone No. (41-22) 338.83.38

Facsimile No. (41-22) 740.14.35

PATENT COOPERATION TREATY

PCT

INTERNATIONAL PRELIMINARY EXAMINATION REPORT

(PCT Article 36 and Rule 70)

Applicant's or agent's file reference 97021PCOP551	FOR FURTHER ACTION		cation of Transmittal of International Examination Report (Form PCT/IPEA/416)			
International application No. PCT/JP97/00804	International filing date (day) 13 March 1997 (13.6		Priority date (day/month/year) 13 March 1996 (13.03.1996)			
International Patent Classification (IPC) o G01N 33/53, C07K 16/18	or national classification and IPC					
Applicant						
Applicant M	IITSUBISHI CHEMICAL (CORPORAT	TION			
	examination report has been pre e applicant according to Article 3		International Preliminary Examining			
2. This REPORT consists of a total	of sheets, includ	ing this cover s	sheet.			
been amended and are the		s containing re	tion, claims and/or drawings which have ectifications made before this Authority the PCT).			
These annexes consist of	a total of sheets.					
3. This report contains indications re	elating to the following items:					
I Basis of the repo	ort					
II Priority						
III Non-establishm	ent of opinion with regard to nove	elty, inventive	step and industrial applicability			
IV Lack of unity of	invention					
V Reasoned states citations and ex	nent under Article 35(2) with rega planations supporting such statem	ard to novelty, ent	inventive step or industrial applicability;			
VI Certain docume	nts cited					
VII Certain defects	in the international application					
VIII Certain observa	tions on the international applicat	ion				
Date of submission of the demand	Date	of completion	of this report			
13 March 1997 (13.0	03.1997)	26	June 1997 (26.06.1997)			
Name and mailing address of the IPEA/J	P Autho	Authorized officer				
Faccimile No.	Telen	Telephone No				

Translation

TILLS TAGE BLANK (USPTO)



INTERNATIONAL PRELIMINARY EXAMINATION REPORT

PCT/JP97/00804

I. Basis of	I. Basis of the report					
			s which have been furnished to the receiving Office in response to an invitation and are not annexed to the report since they do not contain amendments.):			
Σ	the internation	onal application as originally filed.				
Γ	the description	on, pages	_, as originally filed,			
_		pages	_, filed with the demand,			
		pages	_, filed with the letter of			
		pages	_, filed with the letter of			
	the claims,	Nos	_ , as originally filed,			
		Nos	, as amended under Article 19,			
		Nos.				
		Nos.	, filed with the letter of,			
		Nos.	, filed with the letter of			
Г	the drawings	, sheets/fig	_ , as originally filed,			
		sheets/fig	_ , filed with the demand,			
		sheets/fig	, filed with the letter of			
		sheets/fig	, filed with the letter of			
2. The ame	endments have res	sulted in the cancellation of:				
Г	the description	on, pages				
Ī	the claims,	Nos				
	the drawings					
_		, 5,10015, 116				
			endments had not been made, since they have been considered e Supplemental Box (Rule 70.2(c)).			
	o go ocyona inc a	sclosure as med, as maleated in the	c Supplemental Box (Kule 70.2(c)).			
4. Additio	nal observations,	if necessary:				
			,			

INTERNATIONAL PRELIMINARY EXAMINATION REPORT

1. Statement			
Novelty (N)	Claims	1-7	YES
	Claims		NO
Inventive step (IS)	Claims		YES
	Claims	1-7	NO
Industrial applicability (IA)	Claims	1-7	YES
	Claims		NO

2. Citations and explanations

The subject matters of claims 1 to 5 do not involve an inventive step in view of document 1 (Proc. Natl. Acad. Vol. 89 (1992), p.5384-5388), document (Neurobiology of Aging, Vol. 16, No. 3 (1995), p. 465-477) and document 3 (Biochemical Journal, Vol. 301 (1994), p. 871-877) cited in the international search Document 1 discloses antibodies containing as an epitope serine 396 and serine 404, among the phosphorylated sites of a phosphorylated tau protein; document 2 discloses antibodies containing as an epitope serine 396, serine 199 serine 202; and document 3 discloses antibodies containing as an epitope threonine 181 and threonine 231. It is obvious to a person skilled in the art to use a partial peptide containing the epitope as an immunogen in producing such an antibody.

The subject matters of claims 6 and 7 do not involve an inventive step in view of documents 1 to 3 cited in the international search report. Documents 1 to 3 disclose that the phosphorylated tau protein content in PHF correlates to Alzheimer's disease. Therefore, it is obvious to a person skilled in the art to detect Alzheimer's disease by using an antibody against a phosphorylated tau protein in PHF.

Ne





萨許協力条約

PCT

国際予備審査報告

18/9:

REC'D 14 JUL.1997
WIPO POT

(法第12条、法施行規則第56条) [PCT36条及びPCT規則70]

出願人又は代理人 の書類記号 97021PC0P551		今後の手続きについては、国際予備審査報告の近付通知(禄式PCI) IPEA/416)を参照すること。							
国際出願番号 PCT/JP97/00804	国際出願日 (日.月.年) 13.03.97	優先日 (日.月.年) 13.03.96							
国際特許分類 (IPC) Int. Cl ⁶ G01N33/53, C07K16/18									
出願人(氏名又は名称) 三菱化学株式会社									
		第57条(PCT36条)の規定に従い送付する。							
	受紙を含めて全部で 3								
査機関に対してした訂正を	t、附属容類、つまり補正されて、こ 合む明細容、静求の箆囲及び/又に CT実施細則第607号参照) ―――――ページである。	この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審 は図面も添付されている。							
3. この国際予備審査報告は、次の)内容を含む。								
I X 国際予備審査報告の	基礎								
Ⅱ □ 優先権									
田 新規性、進歩性又は	産業上の利用可能性についての国際	予備審査報告の不作成							
Ⅳ □ 発明の単一性の欠如									
V X PCT35条(2)に期 の文献及び説明	l定する新規性、進歩性又は産类上 <i>0</i>	の利用可能性についての見解、それを哀付けるため							
VI bる種の引用文献									
VI 国際出願の不備									
VI 国際出願に対する意	見								
国際予備審査の請求容を受理した日		審査報告を作成した日							
13. 03. 97		26. 06. 97							
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/)		査官(権限のある職員) 2月 9408							
郵便番号100 東京都千代田区記が関三丁[山	財 祥子 (上町) 大計							
		03-3581-1101 内線3252							

mf. 7

<u>I</u> .	3	廖予備審査 幸	と告の	三基礎		
	_			のかいてもの川原や客にせるいでんです	аљ (У+ФТСД (ПСТ	1.1.4.4.1 の用ウに甘るノムムに
1.				W告は下記の出願書類に基づいて作成され 出された差し替え用紙は、この報告書に		14条)の規定に基づく命令に
	M	い合うつためい	- 10 E (1	ロされた左し替ん用紙は、この報音者によ	20v. (「田崎144」 こうら)	
	X	出願時の国際	3 出版	有事類		
	<u> </u>	шж-ч-	r 1114	A 112 70A		
		明細審	第	ページ、	出願時のもの	
	_	明細書	第	ページ、	国際予備審査の請求書と	共に提出されたもの
		明細書	第	ページ、		付の書簡と共に提出されたもの
		明細書	第	ページ、		付の書簡と共に提出されたもの
	_					
		請求の範囲	第		出願時に提出されたもの	
		請求の範囲	第	項、	PCT19条の規定に基	
		請求の範囲		項、	国際予備審査の請求審と	
		請求の範囲				付の書簡と共に提出されたもの 付の書簡と共に提出されたもの
		請求の範囲	第			刊の音曲と共に提出されたもの
		図面	第	ページ/図	出願時に提出されたもの	,
		図面	第	ページ/図、		
		図面	第	ページ/図、	四外,四角子以前公司。	付の書簡と共に提出されたもの
		図面	第	ページ/図、		付の書簡と共に提出されたもの
2.	有			2書類が削除された。		
		明細書	第	ページ		
		請求の範囲	第			
	\Box	図面	第	ページ/図		:
	_					
3.	\Box	この国際予例	審	E報告は、補充欄に示したように、補正x	が出願時における開示の範	i囲を越えてされたものと認めら
	_	れるので、そ	か 有	甫正がされなかったものとして作成した。	(PCT規則70.2(c))	į
4.	i	動加の意見(必	4要な	ならば)		



国際出願番号 PCT/JP97/00804

見解		
新規性(N)	請求の 筑 囲 <u>1-7</u> 請求の 筑 囲	
進歩性(IS)	請求の 筑 囲 請求の 筑 囲 1-7	
	See D. S. Mr. Day	
産業上の利用可能性(IA)	請求の 筑 囲 <u>1-7</u> 請求の筑囲	
田 従家で 4 本女		
	れた文献1(Proc.Natl.Acad.Sci., 第89巻(199) p465-477)、文献3(Biochemical Journal,	
こより進歩性を有しない。文献1にはPH	F中のリン酸化タウ蛋白質のリン酸化部位の内、セ	リン396、セリン4048
	セリン396、セリン199、セリン202を ン231をエピトープとする抗体について記 <mark>数</mark>	
製する際に、エピトープを含む部分ペプチ	ドを免疫原とすることは、当業者にとって自明 [・] れた文献1-3により進歩性を有しない。文献1	である。
蛋白質量とアルツハイマー病との間に相関関係がイ	存在することについて記録されており、PHF中	
抗体を使用してアルツヘイマー病の検出を行うこと	: は、当業者にとって自明である。	
·		

11110 PAUE BLANK (USPTO)

特許協力条約

EP



PCT 国際調査報告

(法8条、法施行規則第40、41条) [PCT18条、PCT規則43、44]

出願人又は代理人 の書類記号 97021PC0P551	今後の手続きについては、国際調査報告の送付通知様式(PCT/ISA/220) 及び下記5を参照すること。			
国際出願番号 PCT/JP97/00804	国際出願日 (日.月.年) 17.03.	97	優先日 (日.月.年) 13.03.9	6
出願人(氏名又は名称) 三菱化学株式会	社 			
国際調査機関が作成したこの国際調 この写しは国際事務局にも送付され		HA(PCT18条	・) の規定に従い出願丿	しに送付する。
この国際調査報告は、全部で2	<u>?</u> ページである。			
□ この調査報告に引用された先行	技術文献の写しも添付る	されている。		
1. 請求の範囲の一部の調査	ができない(第I欄参	摇)。		
2. 屈 発明の単一性が欠如して	いる(第Ⅱ欄参照)。			
3. この国際出願は、ヌクレ 査を行った。	オチド及び/又はアミノ	ノ酸配列リストを含	んでおり、次の配列!	リストに基づき国際調
□ この国際出願と共に提	出されたもの			
□ 出願人がこの国際出願	とは別に提出したもの			
_	国際出願の開示の範囲を	シ越える事項を会 ま	ない旨を記載した事命	・ 可が添付されていない
この国際調査機関が書				
4. 発明の名称は 🗷 出願人が	提出したものを承認する	5.		e :
□ 次に示す	ように国際調査機関が作	作成した。		
5. 要約は 🗷 出願人が	提出したものを承認する	5.		
査機関が	示されているように、2 作成した。出願人は、3 を提出することができる	この国際調査報告の		
6. 要約書とともに公表される図は 第 <u>1</u> 図とする。 図 出願人が	•		_ □ なし	
出願人は	図を示さなかった。			
本図は発	明の特徴を一層よく表し	している。		

国際調査報告

国際出願番号 PCT/JP97/00804

A. 発明の	属する分野の分類(国際特許分類(IPC))		
Int.	C1° G01N33/53, C07K16/18		
B. 調査を行			
	最小限資料(国際特許分類(IPC))		
.Int.	C1° G01N33/53		
	トの資料で調査を行った分野に含まれるもの ・		
	国実用新案公報 1926-1996年 国公開実用新案公報 1971-1996年		
	国登録実用新案公報 1994-1997年	•	
, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,			
国際調査で使用	用した電子データベース(データベースの名称、	調査に使用した用語)	
CA	AS ONLINE		¥
引用文献の	S C IBOS SAVS XIIIX		関連する
カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連する。	ときは、その関連する箇所の表示	請求の範囲の番号
X	Proc. Natl. Acad. Sci.,第89卷(1992) B. Licht	enberg-Kraag Phosphorylation-depend	1-7
	ent epitopes of neurofilament antibodies h Alzheimer tau" p5384-5388 ABSTRACT	on tau protein and relationship wit	
X	Neurobiology of Aging, 第16卷第3号 (1995)	R. Nuydens Neuronal Kinase Stimulat.	1-7
	ion Leads to Aberrant Tau Phosphorylation ACT		
Х	Biochemical Journal,第301巻 (1994) M. Goed tibodies to the paired helical filaments ABSTRACT		1-7
	ADDITACT		-
□ C欄の続き	にも文献が列挙されている。	□ パテントファミリーに関する別	紙を参照。
* 引用文献の		の日の後に公表された文献	
「A」特に関連 もの	車のある文献ではなく、一般的技術水準を示す	「T」国際出願日又は優先日後に公表さ て出願と矛盾するものではなく、	
「E」先行文献	大ではあるが、国際出願日以後に公表されたも	論の理解のために引用するもの	
の 「L」優先権i	E張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行	「X」特に関連のある文献であって、当 の新規性又は進歩性がないと考え	
日若しく	は他の特別な理由を確立するために引用する	「Y」特に関連のある文献であって、当	
	閏由を付す) こる開示、使用、展示等に言及する文献	上の文献との、当業者にとって自 よって進歩性がないと考えられる	
	百日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願	「&」同一パテントファミリー文献	5 609
国際調査を完了 27. 03. 9		国際調査報告の発送日 08.04	4.97,
	D名称及びあて先 国特許庁 (ISA/JP)	特許庁審査官(権限のある職員) 山村祥子	2J 9408
	『原番号100 『千代田区霞が関三丁目4番3号	(43)	/ - #100 0 0 5 0
果从石	PITV田区限が関ニ」日4番3号	電話番号 03-3581-1101	内線3252

19日本国特許庁(JP)

⑪特許出願公開

⑫ 公 開 特 許 公 報 (A)

平4-135731

⑤Int. Cl. 5

識別記号

庁内整理番号

43公開 平成4年(1992)5月11日

B 29 C 47/88 # B 29 L 23:00

7717-4F

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

60発明の名称

熱可塑性樹脂管の製造方法

②特 顧 平2-258388

20出 願 平2(1990)9月27日

⑫発 明 者 相 本

義昭

神奈川県平塚市真土2480番地 三菱樹脂株式会社平塚工場

内

勿出 願 人 三菱樹脂株式会社

東京都千代田区丸の内2丁目5番2号

個代 理 人 弁理士 近藤 久美

明細

- 発明の名称
 熱可塑性樹脂管の製造方法
- 2 特許請求の範囲

押出機の先端に設けた口金から押出した溶融樹脂管を内外周面から冷却を樹脂管の内周側になったり、前記溶融樹脂管の内周側に接触する当接部材を配設しに接触する当に冷葉を強制的に接触するとは冷却すると共に、流過を特徴とする。独可塑性樹脂管の製造方法・

3 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、口金から押出した溶融樹脂管を内外 周面から効果的に冷却して、管壁に歪みが発生す るのを防止した熱可塑性樹脂管の製造方法に関す る。 (従来の技術とその課題)

一般に、塩化ビニル樹脂、ポリエチレン樹脂等の熱可塑性樹脂管を製造する場合、口金から押出した溶融樹脂管を冷却水相内に潜らせて外周面を冷却水で冷却することが行なわれている。

ところが、海融樹脂管を外周側から冷却するだけでは、管の内周面と外周面との温度差が大きいために管壁の厚方向に温度勾配ができる。このため、成形された熱可塑性樹脂管の管壁に肉厚方向の歪が発生して管が変形したり、 援効・ 65 季等の外力が作用したときに管が破損し易いという問題があった。

そこで、口金から押出された溶酸樹脂管を管外周側から冷却するだけでなく、管内周側からも冷却 して管壁に歪が発生するのを防止する方法が穏々 提案されている。

例えば、特開昭50-112462号公報には、 第4図に機断面図で示した如く口金から押出され た海融樹脂管を管内周側から強制的に冷却する方 法が提案されている。これを同図に基づいて簡単

本発明は、かかる認題を解決したものであつて、 溶融樹脂質を内外周面から効果的に冷却でき、質 望に歪が発生することのない熱可塑性樹脂質の裂 違方法を提供するものである。

(認題を解決するための手段)

本発明は、口金から押出された溶融樹脂管の内

に設けられている。口金1を构成するダイリング 11とマンドレル12との間には現状の樹脂通路 13が設けられており、該樹脂通路13から溶融 樹脂管2が押出成形される

マンドレル12の内部は空洞となつており、該空 洞内には水、空気等の冷媒を前記海破樹脂管2の 内周側に称入するための供給管3と、昇温した使 用済みの冷盛を排出するための砕管4とが配管さ れている。またマンドレル12の先端部には断熱 および防水用の遮莜板5が設けられており、該遮 **菠板5を貫通した供給管3の先端にゴム等の弾性** 部材からなる円筒状のバック(当接部材)6が設 けられている。バック6の外径は溶酸樹脂質2の 内径とほぼ同径となっており、その外周面には多 図の小孔61が穿設されている。また、該バック 6の他端には迎結部材71を介して海融樹脂質2 の内周面と密接する遮蔽板7が設けられている。 一方、海陸留脂管2の外周側には冷却水和8が設 けられており、該冷却水杞8内を潜って迢過する 間に溶酸樹脂質2の外周面が桕内の冷却水と接触

周側に管内周面と弾性的に接触する当接部材を配設し、該当接部材と管内周面との間に冷媒を強制的に通過させて海融樹脂管の内周面を冷却すると共に、該樹脂管を冷却水杞内に潜らせて外周面を冷却水で冷却することを特徴とするものである。 (作 用)

口金から押出された海融樹脂管の内周面と、該管内周面と弾性的に接触している当接部材との間に冷葉を強制的に通過させると、管内周面とがががあると、で内周面に通過させると、で内周面で高いい際間を冷葉が勢よく通過可能で海融を動脂管の内周面が冷却水によって冷却される。

(実施例)

以下、本発明の実施例を図面にて詳細に説明する・第1図は本発明で用いられる製造装配の一実施例を示す機断面図、第2図および第3図は他の実施例を示す要部断面図である。まず第1図に示した装配の疑略を説明すると、図中符号1は口金であって、該口金1は押出機(図示せず)の先端

して冷却されるようになつている。

第2図に示した装匠は、溶破樹脂管2の内周側に砕管4と接続して砕管40を設け、該砕管40の外周面にゴム等の段性部材からなるディスク(当接部材)6aを随方向に所定間隔で多数突設

PAGE BLANK (USPTO)

特開平4-135731(3)

しその後方に遮蔽板7を設けたものであり、各ディスク6 aの外周面は溶融樹脂管2の内周面を弾性的に接触している。供給管3から溶融樹脂管2の内周側に冷媒が導入されたとき、この冷媒は溶融樹脂管2の内周面とディスク6 aの外周面の映い隙間を勢いよく次々と通過するため、溶融樹脂管2の内周面が効率よく冷却される。一方、昇温した使用済の冷媒は導管40に設けた通孔42から導管4を介して排出される。

を介して排出される。

(発明の効果)

4 図面の簡単な説明

第1図は本発明で用いられる熱可塑性樹脂管の 製造装置を示す縦断面図、第2図および第3図は 本発明の他の実施例を示す要部断面図、第4図は 従来装置の要部を示す縦断面図である。

 1 …… 口金
 1 1 …… ダイリング

 1 2 … … マンドレル
 2 … … 溶融 樹脂管

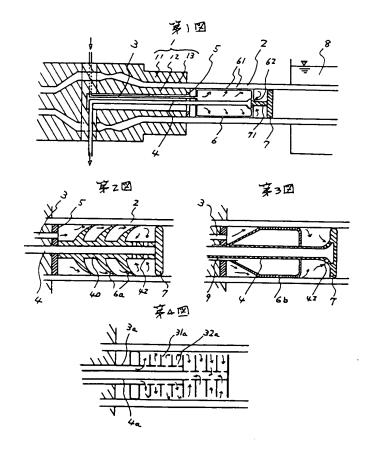
 3 … … 給水管
 4 … … 溶管
 5 … … 遮蔽板

 6 … … バック (当接部材)
 6 a … … ディスク

 (当接部材)
 6 b … … バック (当接部材)

 7 … … 遮蔽板

特許出願人 三菱樹脂株式会社 代理人 弁理士 近 菸 久 美



THIS PAGE DENING (USPTO)

⑩ 日 本 国 特 許 庁(JP)

⑩特許出願公告

輟(B2) $\Psi 4 - 33246$ 許

Sint. Cl. 5 識別記号 庁内整理番号 B 29 B B 29 C 7722-4F 7717 - 4 F7717—4 F 2126-4F 2126 // B 29 L

❷❸公告 平成 4年(1992)6月2日

発明の数 2 (全3頁)

❷発明の名称

パリスンの押出方法及びその装置

20特 願 昭60-215958 69公 開 昭62-202713

223出 願 昭60(1985)9月28日 49昭62(1987)9月7日

⑫発 明 者 長 井 澄 群 神奈川県相模原市東大沼4丁目4-8

キョーラク株式会社 **の出** 頭 人

京都府京都市上京区烏丸通中立売下ル龍前町598番地の1

査 官 審 浦 均

1

切特許請求の範囲

1 ヘッド内に圧入された合成樹脂がヘッド内の ダイとコアの間を通過する際にダイとコアとの間 隔を変えてパリスンの肉厚を変化させるパリスン の押出方法において、押出時に合成樹脂の圧入速 度を変化させこれによりコアに加わる軸線方向の 力を変化させコアの上下動を制御してコアとダイ の間隔を変えることを特徴とするパリスンの押出 方法。

の間隔をダイを上下動させることにより変化させ てパリスンの肉厚を変化させるパリスンの押出装 置において

外部から内部へ合成樹脂を導入する注入孔を備 えるダイと

該ダイ内部にあつて同心状に上下に摺動可能な 芯金と

該芯金の位置を弾発保持する弾機 より構成されるパリスンの押出装置。

発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は、パリスンの押出方法及びその装置に 関するもので、さらに詳しくはヘッド内に圧入さ れた合成樹脂の圧力によりダイとコアの間隔を変 化させてパリスンの肉厚を制御するパリスンの押 25 これによりコアに加わる軸線方向の力を変化させ 出方法及びその装置に関するものである。 従来の技術

2

ダイとコアの間隔を変化せさてパリスンの肉厚 を制御する技術は、例へば特開昭47-7137号公報 に記載されているように予め設定されたプロフア イルに従つて油圧によりコアを上下動させるもの が一般的である。

従来の欠点

従来技術によれば、プロフアイルを設定する電 子プログラマー、プロフアイルに従つてエネルギ ーを発生させるサーボ増巾器、ダイとコアの位置 2 ダイ出口の形状が傾斜状であるダイとコアと 10 を電気的にフィードバックするトランデューサー など、各種の電子部品を使用してコアを上下動さ せるものである。これらは高価であるばかりでな く故障が多く、特に電気的ショツクに弱いという 欠点を有している。

> またこのような装置は高価であるのでパリスン *15* の下端と上端だけを薄肉にしたいという基本的な パリスンの押出には経済的に使用できないもので あつた。

問題点を解決するための手段及び作用

そこで本発明の押出方法として、 20

> ヘッド内に圧入された合成樹脂がヘッド内のダ イとコアの間を通過する際にダイとコアとの間隔 を変えてパリスンの肉厚を変化させる押出方法に おいて、押出時に合成樹脂の圧入速度を変化させ コアの上下動を制御してコアとダイの間隔を変え ることを特徴とするパリスンの押出方法

としたことにより、圧入速度を変化させるだけで 所望の肉厚のパリスンを得ることができ、成形品 自体には含まれない捨てバリ部分の肉厚を軽易に 薄くできるのである。

さらに本発明の製造装置によれば

ダイ出口の形状が傾斜状であるダイとコアの間 隔をダイを上下動させることにより変化させてバ リスンの肉厚を変化させるパリスンの押出装置に

えるダイと

該ダイ内部にあつて同心状に上下に摺動可能な 芯金と

該芯金の位置を弾発保持する弾機 より成るパリスンの押出装置 としたので、導入される合成樹脂の速度を変化さ

せるだけできわめて容易にパリスンの肉厚を制御 することができ、押出装置自体もきわめて安価に 形成でき、すべて機械的な制御であるので環境に より装置が故障することがないのである。

実施例

本発明の実施例を第1図により説明する。1は ダイでその上部に外部から内部へ合成樹脂を導入 する注入孔 1 a を有する。この合成樹脂は押出機 アダプター2を通じて導入される。ダイ1内には 芯金3が摺動自在に装着され、ダイ1内の芯金3 にはマンドレル5が装着されている。マンドレル 5の樹脂注入孔1aに相当する部分に円周状に環 状溝5aが形成してある。芯金3の下端にはコア 30 4が連設され、マンドレル5、芯金3、コア4が 一体に連設され、これらとダイとの間隙は、樹脂 注入孔1 aから圧入された合成樹脂の樹脂通路6 を形成している。コア4は下方へ行く程末広がり の形状となつている。芯金3とダイ1は、摺動面 35 る。 7にて上下に摺動自在である。芯金3の上方には 環状体8が一体に連設されており、その下方には 一定の間隔を隔てて地面と固定された保持部材1 0を有し、保持部材10と環状体8との間には芯

上記装置の動きを説明する。可塑化溶触された 合成樹脂を押出機あるいはアキユームシリンダー (図示せず) よりアダプター2を通じて樹脂通路

6へ圧入する。コア4に至つた成樹脂は、末広が り状の面を圧迫する。この力は、コア4及び芯金 3を下方へ押し下げようとし、環状体 8には発条 9を圧縮する。圧縮してコア4の位置がダイ1よ 5 り相対的に下方へ移動すると、第2図に示すよう にダイとコアの間隙もが広がりた、押出されるパ リスンの肉厚も変化する。合成樹脂の押出が停止 するとダイとコアの位置は発条9の弾性により元 の位置へ復帰する。なお、マンドレル5の環状溝 外部から内部へ合成樹脂を導入する注入孔を備 10 5 a はアダプター 2 から圧入された合成樹脂が円 周状に全体へ均等にまわるように形成するもので

> ところで、上記実施例では、コアの形状を下方 へ行くにつれて末広がり状としたが、本発明を実 15 施するにはコアの形状を下方へ行くにつれてその 径を小さくするものとしても同様に機能をはた す。そしてこの場合、弾機の位置は保持部材10 とマンドレル3との間に装着してダイが上方へ移 動する力を弾機で規制するものである。

さらに上記実施例においては、コアの位置をダ 20 イと同じ高さにしたが、この位置をさらに高くし てスリツトをなくしダイとコアとを密着させる と、押出停止時に合成樹脂が垂れてくるという押 出装置の欠点も改善することができる。特に粘度 あるいはアキユームシリンダー (図示せず)より 25 の低い溶触樹脂の場合に効果的である。この場合 圧入される合成樹脂の圧力によりスリットが設定 され、肉厚が設定される。また押出を停止すると ダイとコアが密着する。

発明の効果

ある。

本発明の製造方法は、以上のように構成したの で、合成樹脂の圧入速度を変化させるだけで所望 の肉厚のパリスンを押出すことが可能で、成形品 自体には含まれない捨てバリ部分の肉厚を容易に 薄くでき原料効率の高い押出が得られるのであ

また本発明の製造装置は以上のように構成した ので圧入される合成樹脂の速度を変化させるだけ できわめて容易にパリスンの肉厚を制御すること ができ、押出装置自体もきわめて安価に形成で 金に挿入された発条9が装着され弾着されてい 40 き、またすべての動きが機械的な制御であるので 環境により装置が故障することがないのである。

図面の簡単な説明

本発明の一実施例を示すもので、第1図は押出 装置の断面図、第2図はダイとコアの関係を示す

(3)

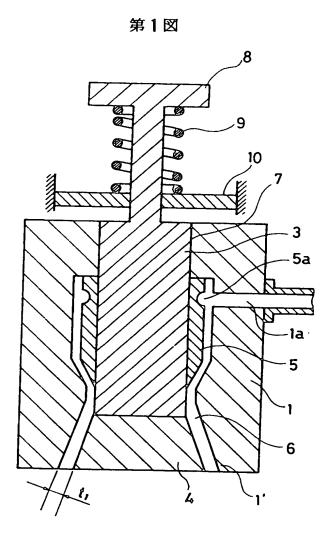
特公 平 4-33246

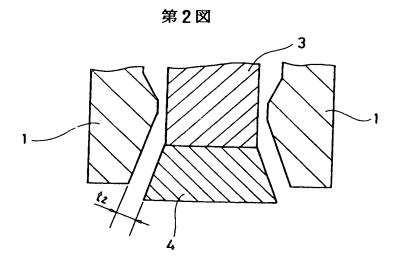
5

6

説明図である。 1……ダイ、3……芯金、4……コア、9……

発条。







(1) Int Ol.

愈 日本分類

B 29 d 25 N 181 C 08 j 25 N 12 B 29 f

日本国特許庁

迎特 許 出 願 公 告

昭45一36437

⑩特 許 公 報

金公告 昭和 45年(1970)11 月19 日

発明の数 1

(全3頁)

図筒状発泡物の押出ダイス

20件 願 昭42-18387

昭42(1967)3月23日 22)出 願

72発 明 者 横山彌

宝塚市米谷星乃荘82

同 井上韶久

枚方市香里ヶ丘6の30

百 福嶋信雄

茨木市桑田町2の1

同 山田利春

豊中市服部南町1の37

⑦出 願 人 住友化学工業株式会社

大阪市東区北浜5の15

代 表 者 長谷川周重

代 理 人 弁理士 沢浦雪男

図面の簡単な説明

図面は本発明方法を実施するに適する筒状発泡 物の押出用タイスの一例を示す縦断正面図であ20付着するのを防止せしめる装置に関するものであ る。

発明の詳細な説明

本発明は発泡剤を配合した熱可塑性樹脂より筒 状発泡物を製造するための押出しダイスに関する 料の押出し流路出口部に対して空気を吹付けうる ようにリップの出口全周にわたつてダイス本体に 空気流路をもうけてなる押出しダイスに関する。

従来、熱可塑性樹脂の発泡フイルム、発泡シー 以外の低密度発泡体には円型押出しダイスはあま り用いられていない。かかる方法で製造したポリ スチレン発泡成形物は、その用途が主として湯茶 のような流体を容器に向けられているので、発泡 による流体の逸出を防止するために独立気泡構造 35 は通常市販される発泡剤一般である。たとえば、 の成形体が必要である。しかもポリスチレンは低 温で発泡加工が行われるため、比較的ダイス金属 に付着する性質が乏しく、筒状に押出されたとき

止むなく破裂する独立気泡のヒレがダイスに粘着 し、押出し成形の妨げとなることは少ない。とこ ろがポリオレフインその他金属に粘着し易い樹脂 または加工条件の場合には、このわずかなヒレも 5 運転継続と共に蓄積し、操業のさまたげになるこ とも希でない。

本発明者らは、さきにポリオレフインの発泡組 成物を円型押出ダイスより押出して液融組成物が、 内圧より解放される際にほとんど全ての気泡を破 10 裂せしめて、通気構造の筒状フイルムを製造し、 これを長手方向に延伸することによつて本発明者 等が スプリット ・ヤーンと 名付けた 「くもの 巣状」 の成形物を製造する方法を発明し、別途出願した ところである。このような場合には、独立気泡は 15 ダイスから離れる瞬間からその大部分が破裂する ので、ヒレがリップ面に付着蓄積して著しく運転 の障害となる。本発明は、多かれ少なかれ、熱可 塑性樹脂発泡組成物を溶融押出しするに際して生 ずる独立気泡破裂被膜のヒレがダイスリップ面に る。すなわち、発泡剤を配合した熱可塑性樹脂を 使用して発泡体フィルムを押出すダイスにおいて、 押出される材料の流路出口先端の全周にわたつて ダイス本体に空気通路をもうけ、空気を吹きつけ ものであり、さらに詳しくは発泡可能な可塑性材 25 る構造とすることによつて発泡体フイルムの連続 製造を可能ならしめた押出しダイスである。

本発明装置に適用しうる合成樹脂発泡体フイル ム材料は、結晶性ポリオレフイン類、それらオレ フィンの相互共重合体、ポリ塩化ビニール、ポリ ト等の成形体を製造するに当たり、ポリスチレン 30 エステル、ポリアミドなど一般の熱可塑性樹脂を 指称するもので、これら発泡体フィルムは上記樹 脂に発泡剤および/または発泡助剤、着色剤、安 定剤などを配合添加して加熱発泡せしめたもので ある。本発泡体フイルム製造に使用される発泡剤 アゾジカルポンアミド等のアゾ系、P・Pーオキ シビスペンゼンスルホニルセミカルバジツド、ト ルエンスルホニルセミカルバジツド等のスルホニ

ルセミカルパジツド系、P・Pーオキシベンゼン スルホニルヒドラジツド等の スルフオニールヒド ラジツド系、ジニトロソペンタメチレンテトラミ ン等のニトロソ系の化合物または溶剤等である。

的に良好な発泡体フイルムを得るための本発明に よる押出しダイスの詳細を図面について説明する。 図面は本発明押出ダイスの実施の一例を示す縦断 正面図で、本図は円型ダイスより押出された発泡 体フイルムの内面に対してのみ空気吹付口をもう 10 ロピレン共重合体(固有粘度 1.65)に対し、発 けたものである。

発泡剤を配合した熱可塑性樹脂は、押出機内で

発泡剤の分解温度より充分高い温度で熱可塑化さ れ、この溶融押出物は樹脂通路 1を経て、内部ダ イス2と調整リング3とによつて形成されたリツ 15 40mm、L/D=22、冷却マンドレルø95.9 プ4より押出され、筒状の独立または通気構造の 発泡体フィルム 5となつて図示していない捲取り ロールに巻き取られる。この際、リップ4の出口 の内外両面に生ずる気泡破裂被膜の付着を防止す るための空気は、ダイス外部より空気通路6を経20の連続運転製造の比較実験を行つた。 て送りこまれ、リップ4の内側に同心円的に内部 ダイス2とリンク7により形成した空気吹付スリ ット8により吹付けられる。押出された発泡体が 独立気泡より形成されている場合は、発泡体チュ ープの内圧を調整するために空気出口通路 9より 25 吹付空気を調節しながら逃がす必要がある。既述 のように本図は形成された発泡体フィルムの内面 のみより空気の吹付けを行つているが、所望によ つては調整リンク3上に内部と同様な空気吹付ス リット 8をもうけることにより外部からの空気吹 30 付も可能である。本発明者等の経験によると、前 記せるスプリツト・ヤーンの製造においては発泡 体フイルムを通気構造とするため、押出された発 泡体のチューブ径がダイスの樹脂通路出口径より 小さくなる。かかる場合には内部よりの空気吹付 35 けが必要となる。また発泡体チューブが独立気泡 3 より形成され、ダイス径より大きくプローアップ される場合には外部よりの空気吹付けが必要とな

以下、実施例により本発明をさらに詳細に説明 40 押出した場合、40分程度でダイスリップ面に独 する。

実施例 1,2および3

市販ポリプロピレンのフィルムグレード(住友 化学工業K.K.製商品名住友ノープレンFL102、

ルポンアミドを 0.5 重量%になるようにリポンプ レンダーで常法によりドライブレンドした押出原 料(1)、(1)の原料により製造された発泡体フィルム をペレット化した再成品を(1)の原料に20%添加 以上、上記熱可塑性樹脂および発泡剤より連続 5 した押出用原料(2)、(1)と同じ発泡剤を比重 0.923、 メルトインデックス4のポリエチレンにバンバリ ーミキサー常法により混練して10重量%の発泡 剤マスターバッチを製造し、これをエチレン2.5 %をポリプロピレンにプロック共重合させたポリプ 泡剤濃度が樹脂に対して 0.5 重量%となるように 配合した押出用原料(3)をそれぞれ原料とした。

> これら押出用原料を冷却マンドレルを装備した 下向きチユープラーフイルム装置(スクリユーφ mm)を使用してスクリュー回転数60r.p.m. ダイス温度205℃、巻取速度12m/min の 条件で、普通のダイス(75mmø)と本発明によ るダイス(75mmø)による多孔発泡体フィルム

その結果を下表に示す。

	実施例	押出用原料	使 用 ダイス	可能連続 運転時間	
	1	ドライプレン	普通ダイス	4 0 分	
	1	ド試料(1)	空気吹付 ダイス	1 0時間 以上	
	2	再生品添加試	普通ダイス	5分	
	2	料(2)	空気吹付 ダイス	1 0時間以上	
	ポリエチレン3マスターバツ	普通ダイ ス	20分		
		チ試料(3)	空気吹付 ダイス	1 0時間以上	

該表に示すごとく、普通使用されている円型ダ イスを使用して発泡可能なポリプロピレン樹脂を 立気泡の破裂膜のヒレが付着して製品は不良品と なつたが、本発明のダイスを使用すると、10時 間以上の連続運転を行つてもかかる現象は生じな かつた。特にポリエチレンマスターバッチ試料ま メルトインデックス8)に対し、発泡剤アゾジカ 45 たは再成品を添加した試料を普通使用されている

5

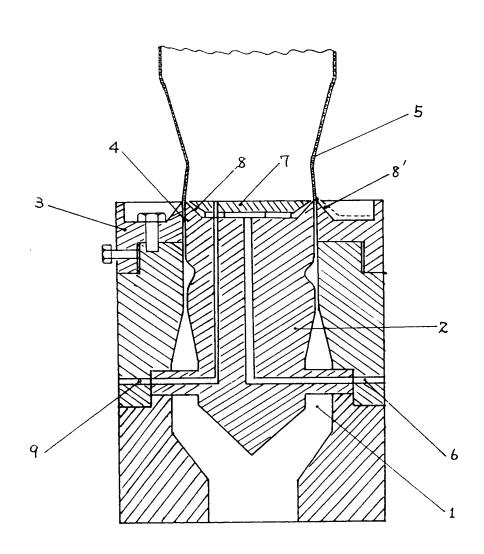
タイスを使用して押出する可能連続運転時間は 20分または5分であり、さらに連続運転が困難 となる。しかし本発明タイスの使用によつでは充

特許請求の範囲

分なる連続運転が可能であつた。

1 発泡剤を配合した熱可塑性樹脂を押出す円型

タイスにおいて、タイスリップ4の出口端の全周にわたつてタイス本体に空気通路6を設け、その 先端をリップ4の内または外または両側に同心円的に空気吹付スリット8(または8'または8およ び8')を設けてなる筒状発泡物押出タイス。



6

PATENT COOPERATION TREAT

From the INTERNATIONAL BUREAU

NOTIFICATION CONCERNING DOCUMENT TRANSMITTED

United States Patent and Trademark Office (Box PCT) Crystal Plaza 2 Washington, DC 20231

ÉTATS-UNIS D'AMÉRIQUE

in its capacity as elected Office

Date of mailing (day/month/year) 07 January 1999 (07.01.99)

International application No. PCT/JP97/00804

International filing date (day/month/year) 13 March 1997 (13.03.97)

Applicant

MITSUBISHI CHEMICAL CORPORATION et al

The International Bureau transmits herewith the following documents and number thereof:

copy of the English translation of the international preliminary examination report (Article 36(3)(a))

The International Bureau of WIPO 34, chemin des Colombettes 1211 Geneva 20, Switzerland

Authorized officer

K. Takeda

Facsimile No.: (41-22) 740.14.35

Telephone No.: (41-22) 338.83.38

PATENT COOPERATION TREATY

	From the INTERNATIONAL BUREAU		
PCT	. То:		
NOTIFICATION OF ELECTION (PCT Rule 61.2)	United States Patent and Trademark Office (Box PCT) Crystal Plaza 2 Washington, DC 20231 ETATS-UNIS D'AMERIQUE		
Date of mailing: 18 September 1997 (18.09.97)	, in its capacity as elected Office		
International application No.: PCT/JP97/00804	Applicant's or agent's file reference: 97021PCOP551		
International filing date: 13 March 1997 (13.03.97)	Priority date: 13 March 1996 (13.03.96)		
Applicant: ISHIGURO, Koichi et al			
1. The designated Office is hereby notified of its election made: X in the demand filed with the International preliminary Examining Authority on: 13 March 1997 (13.03.97) in a notice effecting later election filed with the International Bureau on: 2. The election X was was not made before the expiration of 19 months from the priority date or, where Rule 32 applies, within the time limit under Rule 32.2(b).			
The International Bureau of WIPO 34, chemin des Colombettes 1211 Geneva 20, Switzerland	J. Zahra		
Facsimile No.: (41-22) 740.14.35	Telephone No.: (41-22) 338.83.38		

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP97/00804

1	ASSIFICATION OF SUBJECT MATTER			
Int	. $C1^6$ G01N33/53, C07K16/18			
According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC				
	B. FIELDS SEARCHED			
E .	Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)			
	. Cl ⁶ G01N33/53			
l Jit	Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched Jitsuyo Shinan Koho 1926 - 1996 Kokai Jitsuyo Shinan Koho 1971 - 1996 Toroku Jitsuyo Shinan Koho 1994 - 1997			
1	lata base consulted during the international search (name ONLINE	of data base and, where practicable, search a	erms used)	
C. DOCT	JMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT			
Category*	Citation of document, with indication, where a	ppropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.	
X	Proc. Natl. Acad. Sci., Vo. B. Lichtenberg-Kraag "Phospepitopes of neurofilament protein and relationship wip. 5384-5388 ABSTRACT	phorylation-dependent antibodies on tau	1 - 7	
х	Neurobiology of Aging, Vol. 16, No. 3 (1995) R. Nuydens "Neuronal Kinase Stimulation Leads to Aberrant Tau Phosphorylation and Neurotoxicity" p. 465-477 ABSTRACT			
Х	Biochemical Journal, Vol. "Epitope mapping of monoclopaired helical filaments of disease" p. 871-877 ABSTRAG	onalantibodies to the f Alzheimer's	1 - 7	
Furth	er documents are listed in the continuation of Box C.	See patent family annex.		
 Special categories of cited documents: "A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance "E" earlier document published after the international filing date to be of particular relevance "E" document but published on or after the international filing date "X" document of particular relevance; the claimed invention considered novel or cannot be considered to involve an 		cation but cited to understand invention		
cited to special	ent which may throw doubts on priority claim(s) or which is o establish the publication date of another citation or other reason (as specified)	"Y" document of particular relevance; the	e claimed invention cannot be	
means	"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means considered to involve an inventive step when the document combination or other means.			
the price	the priority date claimed "&" document member of the same patent family			
	Date of the actual completion of the international search March 27, 1997 (27. 03. 97) Date of mailing of the international search report April 8, 1997 (08. 04. 97)			
Name and r	nailing address of the ISA/	Authorized officer		
Jap	Japanese Patent Office			
L	Facsimile No. Telephone No.			
Form PCT/ISA/210 (second sheet) (July 1992)				

国際調査報告

国際出願番号 PCT/JP97/00804

A. 発明の風する分野の分類(国際特許分類(IPC))

Int. C1 6 G01N33/53, C07K16/18

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料(国際特許分類(IPC))

Int. Cl 6 G01N33/53

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報 1926-1996年

日本国公開実用新案公報 1971-1996年

日本国登録実用新案公報 1994-1997年

国際調査で使用した電子データベース(データベースの名称、調査に使用した用語)

CAS ONLINE

C. 関連すると認められる文献			
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の笽囲の番号	
X	Proc. Natl. Acad. Sci., 第89卷(1992) B. Lichtenberg-Kraag Phosphorylation-dependent ent epitopes of neurofilament antibodies on tau protein and relationship with Alzheimer tau p5384-5388 ABSTRACT	1-7	
X	Neurobiology of Aging, 第16巻第3号 (1995) R. Nuydens Neuronal Kinase Stimulation Leads to Aberrant Tau Phosphorylation and Neurotoxicity p465-477 ABSTR ACT	1-7	
X	Biochemical Journal,第301巻 (1994) M. Goedert Epitope mapping of monoclonalan tibodies to the paired helical filaments of Alzheimer's disease p871-877 ABSTRACT	1-7	

_ C相の続きにも文献が列挙されている。

└ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

- 「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示す もの
- 「E」先行文献ではあるが、国際出願日以後に公表されたもの
- 「L」 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行 日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する 文献 (理由を付す)
- 「〇」口頭による開示、使用、展示等に含及する文献
- 「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

- 「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって て出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理 論の理解のために引用するもの
- 「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明 の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
- 「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以 上の文献との、当業者にとって自明である組合せに よって進歩性がないと考えられるもの
- 「&」同一パテントファミリー文献

